

(付録)「学習論・演習ノート」・・・思考力実践入門

・・・「青年期から変わる学び方・指導支援法」・・・

・・・「習得」の学習から「探究」へ、そして「活用」の学習へ・・・



・10歳～15歳頃からこれまで学んだことを分析・分類・整理する頭が急速に発達し、これに対応した学習方法の改善が求められます。

ポイントは・・・「現象の奥にある本質を探究することです」・・・

・・・皆さんが学習する「教科書」や「手引き書」でも重要ポイントは「FW」となっています。それを充分理解してください。そのためにも、「FWカード」の作成に参加するとよいですね。

・・・皆さんの参加により、「演習問題」や「FW(知の構造化)」を作成して、この演習ノートを完成しましょう・・・皆さんの作成をお願いします・・・その参加方法・・・基本は「FWの作成参加」を、次に補助参加「①:イラスト作成、②難易度判定での参加(☆の数判定)」です

・・・皆さんと一緒にこの演習ノートを作成して、互いの成長を期しましょう

・・・もちろん、この「探究思考力」は、人間能力「知力」の一部です。これも他の「心力」や「身体力」とつながって成長発展します。教育の理想は、これらの総合「人間力」にあります。「知力」が「人間力」の中で活かされるように、この「演習ノート」が教師・保護者・教師志学生の方々の研修の資質になれば幸いです。

演習ノート 案内

I : 基本問題・・・1～3「帰納法的思考」・4「演繹的思考」

1 : 分析力育成・・・「たとえ話での『教会のレンガ』(料理では具材)確認」

・・・「事項・こと」を分解して単純化することで分かる力

(始原をさぐるゼロベース思考・いろいろな分析法など)

2 : 分類力育成・・・「例のたとえ話での『教会の壁』(料理技法)の確認」

・・・分析した「こと」どうしの関連をつなぐ力・・・「知のグループ」化

(マインドマップ・KJ法・いろいろなマトリックス表など)

3 : 統合力育成・・・「例のたとえ話での『教会の建物』(レシピ)の確認」

・・・「知のグループ」を結合して「しくみ」をつくる力・・・「知の構造」化

(ピラミッドストラクチャー・総合マトリックスなど)

4 : 逆算思考力育成・・・「想定」から逆算推理する力・・・「演繹的思考」

5 : 図解思考のすすめ・・・思考に役立つ図解を学ぶ

II : 応用問題

・・・基本問題の応用・発展版・・・学習内容項目は同じ

I : 基本問題(小5年～)1: 分析力

総合 ☆

分析は分類の前提となる力

1: 次のものごとを分類するには・・・分析後に分類するので、より正確な分析が必要

①「花の分類」・・・次の分類はどれが一番むつかしいか・・・

a: 季節による花の分類 b: 花の色分け c: 価格による分類
d: 贈答花の選定

・・・「ヒント」どこまでは現象でどこからが本質か・・・

②「魚のネーミング」で次のうち一番容易なのは・・・

a: 鱈 b: 鰯 c: 鯖 d: 鮭 「ヒント」・・・現象は・・・本質は・・・

③「東風」と「東の潮」とは方向は同じか違うか・・・

a: 同じように来る方向 b: 同じように行く方向 c: 風は来る方向
d: 潮は行く方向 e: 風は行く方向 f: 潮は来る方向

「解答・解説」

「分析」とは・・・そのものごとの基礎・基本にまで見極めるため、それを分解して単純化すること。これにより本質の基礎が見えてくる。分析後に分類するのでより正確な分析が必要。そうでないと、単純な類似で分類してしまう。(例:サメとイルカは同じとなる)・・・学習が進むと・・・

「現象系の分析から本質系の分析へ」 が可能となる

- ①「花の分類」答え・・・d またはc(分析が2つとなる・・・花の分析・相手の分析、買い手「市場」の分析・・・その後それらを相関させるので)・・・容易いのはb(目に見える色分けだから)
- ②「魚のネーミング」・・・c(色での命名「現象」) dはむつかしい(他の魚との比較した性質・・・「やや本質」)
- ③「風と潮」・・・cとd 風は来る方向が対策として重要=(wind from) 潮は流された先での搜索が必要=(tide to) という現実的な状況と関係するという説もあり・・・同様に、川の右岸・左岸は、川下りという現実(昔は川上りは不可)と関わり、川下に向かっての分類です

I : 基本問題・・2: 分類力

分析の後には分類「知のグループ」となる

2: 次のものごとを分類するには・・

・・分類には、同グループでの共通性と他のグループとの違いを見分ける力が必要・・分類の仕方によりそれは異なる

①「イルカ」は次の分類ではどの仲間とつながるか・・複数可
1: 体の構造(呼吸と血液)では・・ 2: 海に住む動物では・・

a: 鯨 b: サメ c: 豚 d: インコ

②「皿」の分類法で、最も科学的な分類法はどれか・・

a: 陶器・磁器 b: 大皿・小皿 c: 安価・高価 d: 私用・公用

③「本」の漢字と同じ成立の字はどれか・・複数可

a: 大 b: 上 c: 脱 d: 水 e: 巨

「解答・解説」

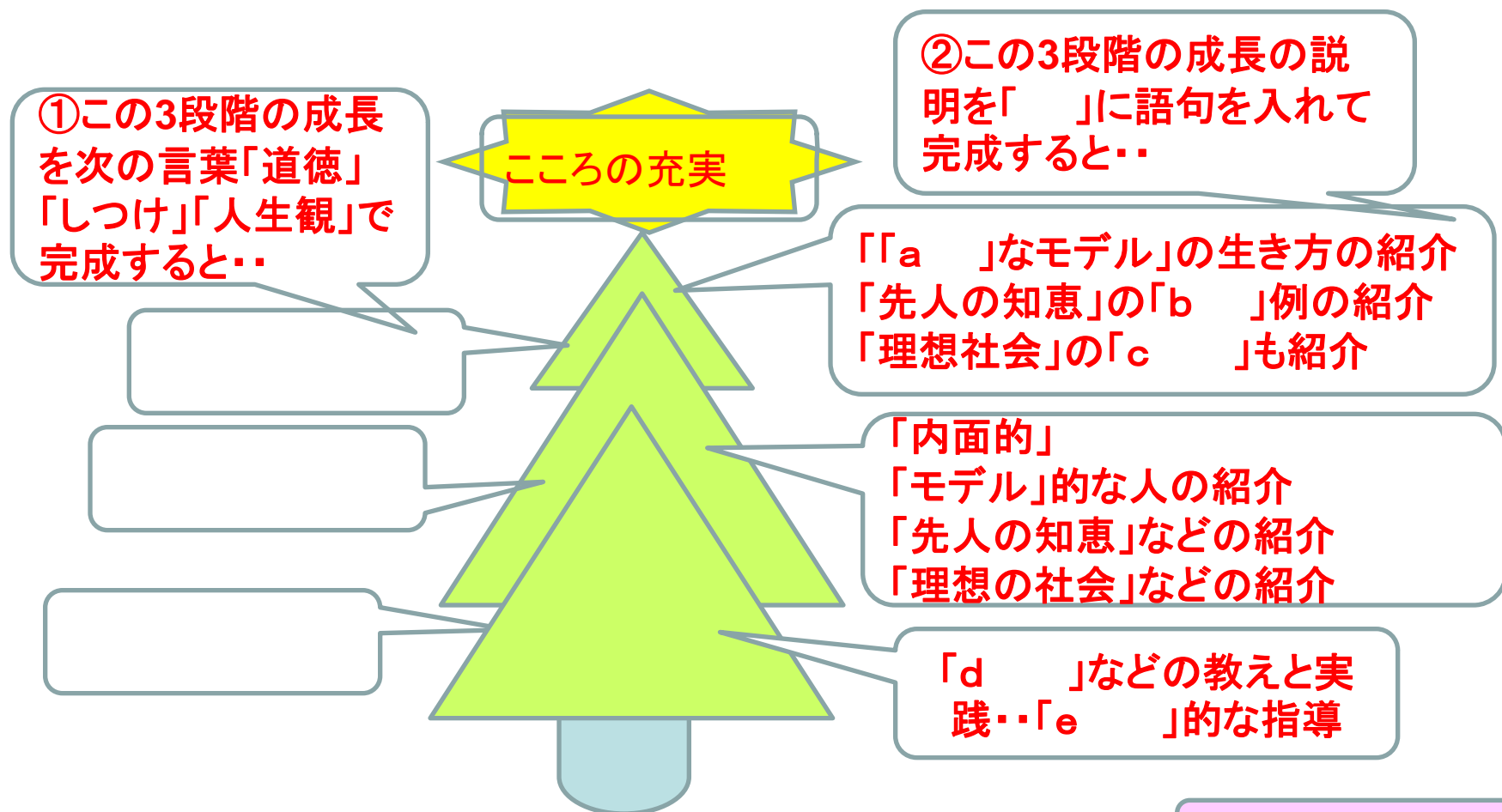
「分析」は「分類」するために、ほぼ同時に行うものですが、その分類の仕方によって、分析の切り口も違ってきます。男女の分類では、祖母も孫娘も同じ類だが、年齢区分分類では別な類となる。だから、正邪(正しさ)の分類と好悪(好き度)の分類とでは切り口が違うこととなる。

- ①の1・・・「a・c」 2・・・「a・b」
- ②・・・「a」(成分性質による分類・・・陶器は粘土から、磁器は石砂からなる・・・磁器が密度はより高い)
- ③・・・「b・e」(どちらも「指事文字」・・・抽象的な状態を示す文字。「本」は「木」の中心を点で位置づけ示したもの、上は上の位置を点で示し、巨は上と下との間が大きいことを示したもの」(漢字の成り立ちに関心を持つと理解と記憶がすすみます。文字の成立は、象形・指事・会意・形声の4つが基本・・・(後の「FW例」にあり・・・))

I : 基本問題・・・3: 統合力

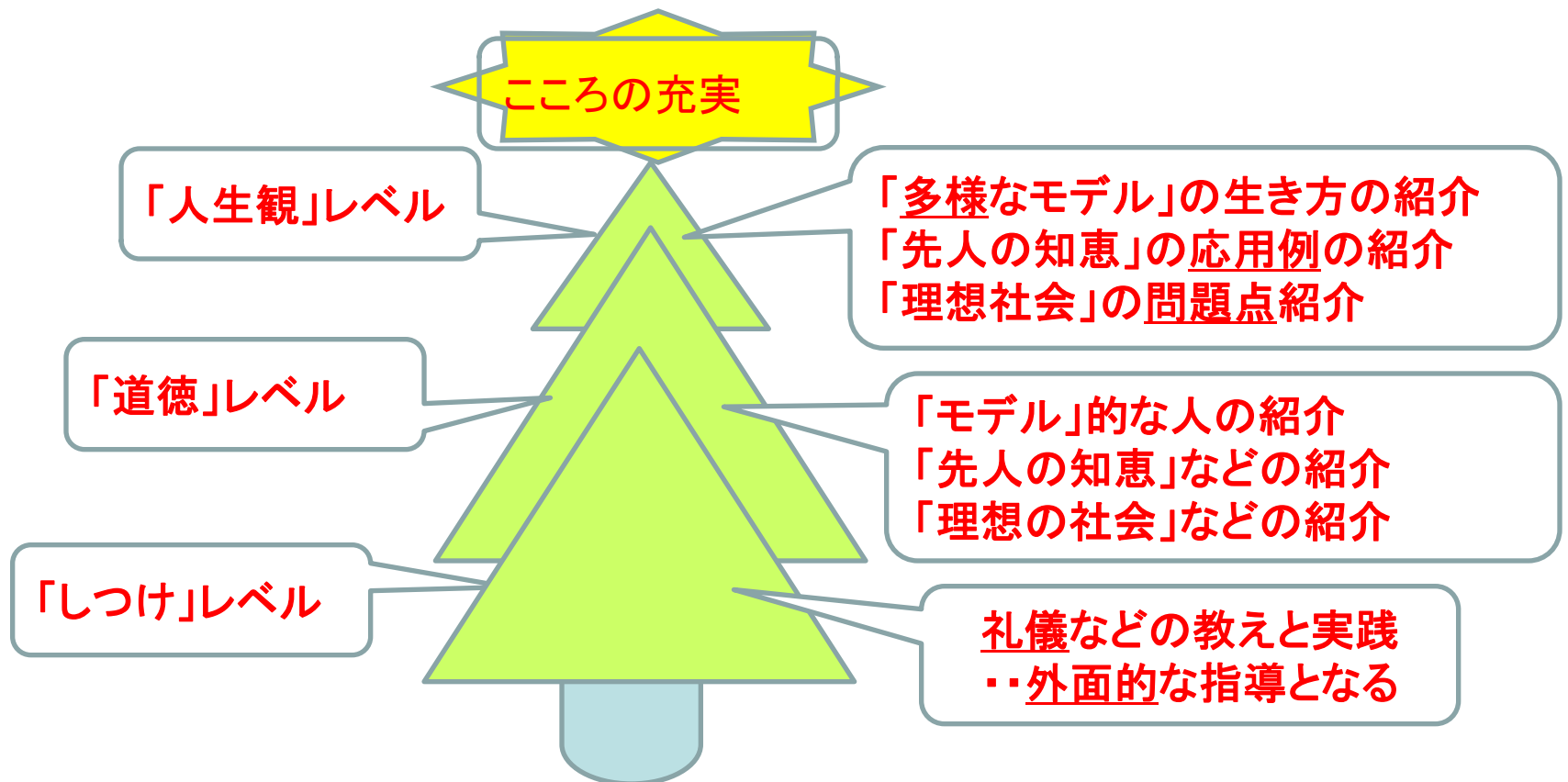
・・・「知のグループ」を組み合わせ「しくみ」造りに

1: 「心の発達3段階」で「心の成長をピラミッド型ツリー」にする



「解答・解説」

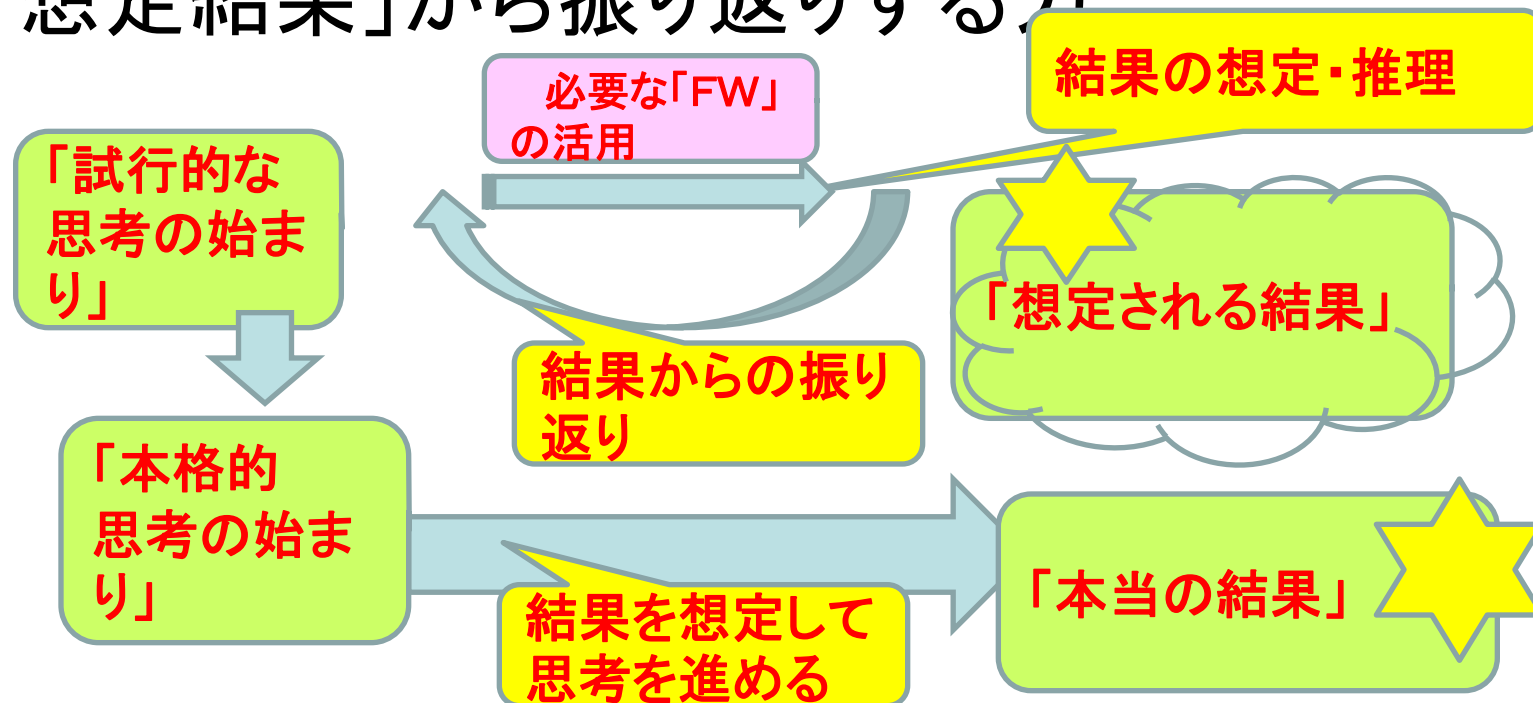
1:ピラミッド型ツリーなどで知識を統合するとわかりやすくなる



総合
☆☆☆

I : 基本問題・・4 : 逆算思考力 結果からの振り返り(演繹型)

「想定結果」から振り返りする力



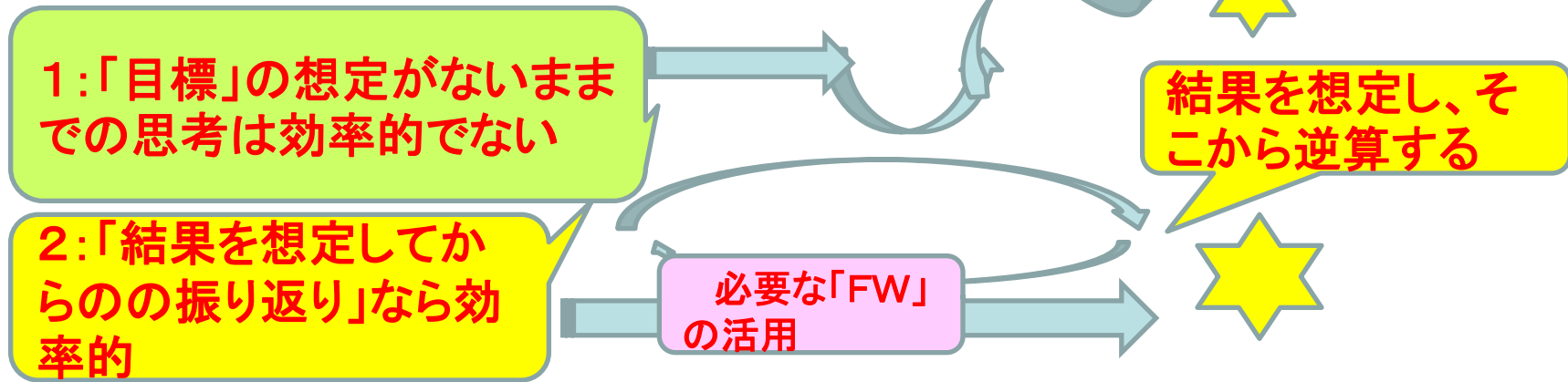
「問題1」・・・次の平均値の出し方で、この逆算思考でのやり方を説明しなさい。・・・「5, 8, 9, 4, 6」の平均は？

「問題2」・・・次の言葉に入る語句を考えなさい・・・「犯人は、この犯行結果で一番『 』した奴だ。だから彼が犯人だろう」

CR:kanaoka

「解答・解説」

「想定結果」から振り返りする力



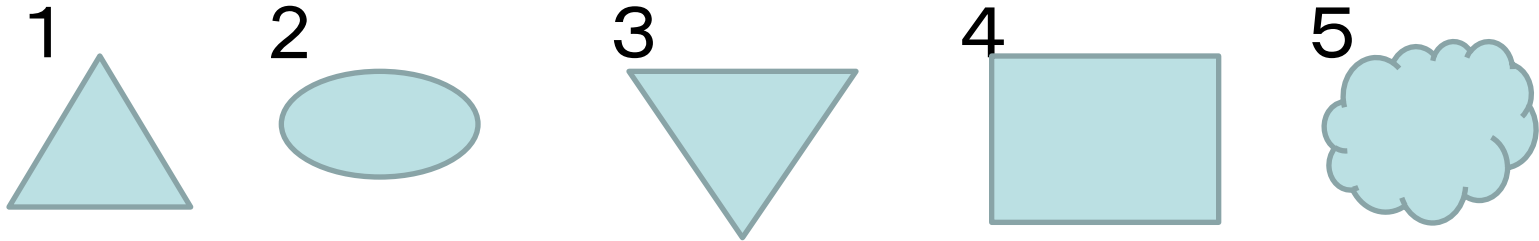
「解答1」・・・平均値を想定して(例えば7を)、そこからの＋で計算すると速く計算できる。「解答2」・・・『得』

「解説」・・・1の思考法は「帰納型」(事項を集めて分析分類しながら法則を探る)・・・学びの初期の段階・・・遅いが、事実を確かめるので手堅い・新発見もある・・・
2の思考法は「演繹型」(結果から振り返り推理していく方法)・・・学びの一定達成後の段階・・・速いが、予測結果に引かれがちの過ちも・・・

「中継ぎ問題1」・図解思考力・基本

・・・図解ができると思考が立体化・複相になります・・・

1:「単純な図」・・・次の図から想像できるイメージに当てはまるものを選ぶと・・・(基本)



a「不安定」 b「曖昧」 c「正確」 d「安定」 e「円満」

2:上の図の中で、①自由・平等 ②秩序・規制 を表すとしたら、それぞれどれを選びますか・・・(やや発展)

図の作成は筆者(Ka)・・・主な参考著書 永田豊志『図解思考の会議』中経出版、久恒啓一『図解思考力』長岡書店、同著者『頭のいい子は図で育つ』ぜんにち など

「解答・解説」・・・基本 ・・・図解思考力・・・

1:「解答」・・・イメージどおり

1=d、2=e、3=a、4=c、5=b

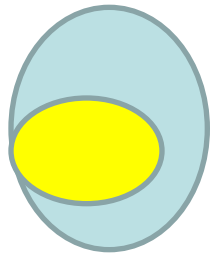
2:①=2でしょうか、5も思い浮かびますので
okかも ②=1でしょう

特にこの ○と △は、組織の状態を表すものとして、社会科学(社会科)ではよく登場します・・・△の身分制度を変革した革命後の状態を○としたりします、

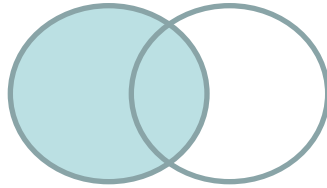
「中継ぎ問題 2」:応用

・・図解思考力・・

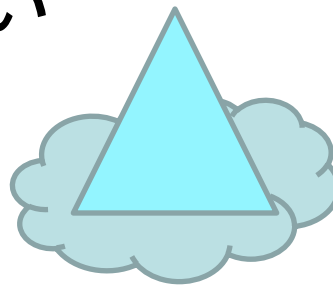
1:「複雑な図」・・互いの関係を表すやや高度な次の図について問に答えなさい



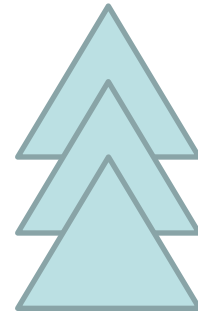
a



b



c

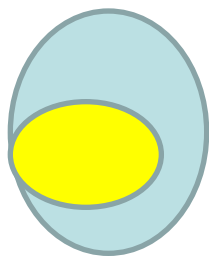


d

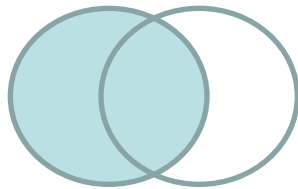
- ①「混乱後に秩序ができた」のは・・
- ②「相互の関係・・相互対等関係」のは・・
- ③「プログラムの進展・・基礎からの組立」は・・
- ④「相互の関係・・吸収合併」は・・

「解答・解説」・図解思考力・

図で複雑なことが図で表せます・・・図解達人になれます・・・



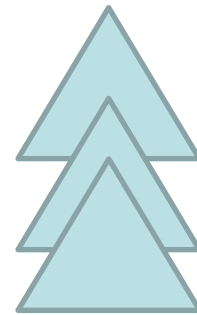
「解答」 ④



②



①



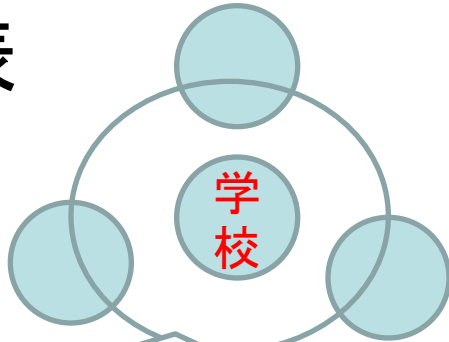
③

「補足」・・・○を重ねるのは「ベン図」といわれ、よく使われます。

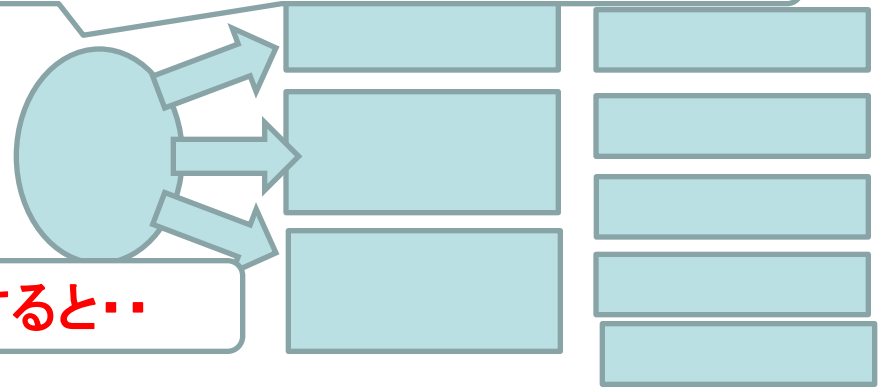
△を重ねるのは「ロジックツリー」といわれ、企画を立ち上げるなどの時に使われます。、

「中継ぎ問題 3」…さらに複雑なもの (中学でも2年生ごろから可能か…)

1: 表

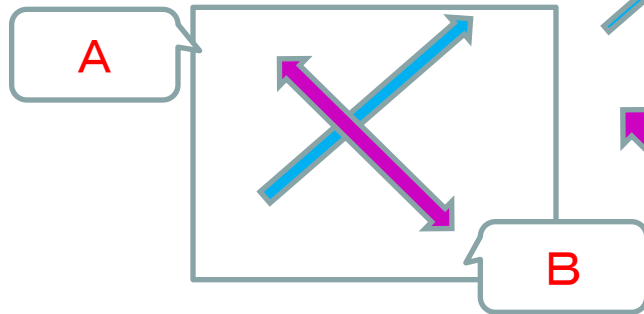


②これで「遅刻」を分類すると…



①これで「学校教育の役割」を分類すると…

2: グラフ



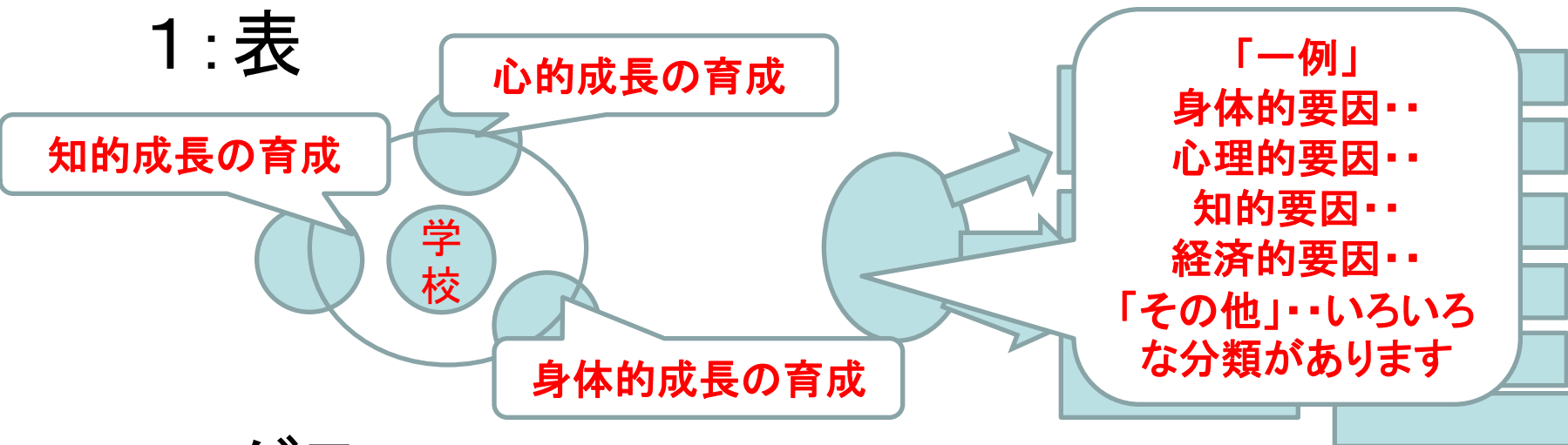
③このグラフは…ABのどういう関係を表したもののか

④このグラフは…ABのどういう関係を表したもののか

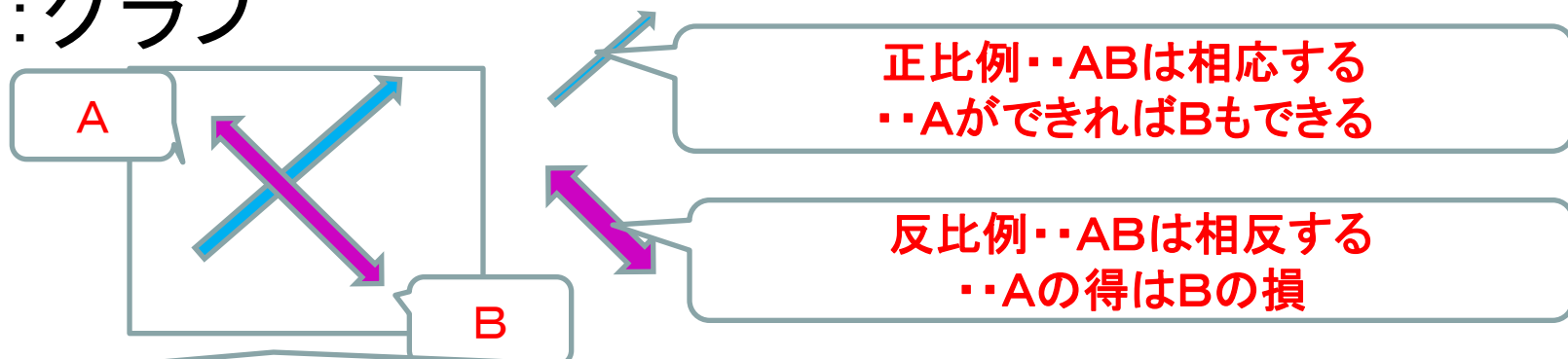
「解答・解説3」・・・さらに複雑なもの

(中学でも2年生ごろから可能か・・・)

1: 表



2: グラフ



「解答・解説」 図はさらに複雑な関係を表現できます。マトリックスとかロジックツリーというものでは、複数の物事の関係が表わせます。また、グラフでは、相互の関係が式として明確に示せます。

「中継ぎ問題 4」: 発展

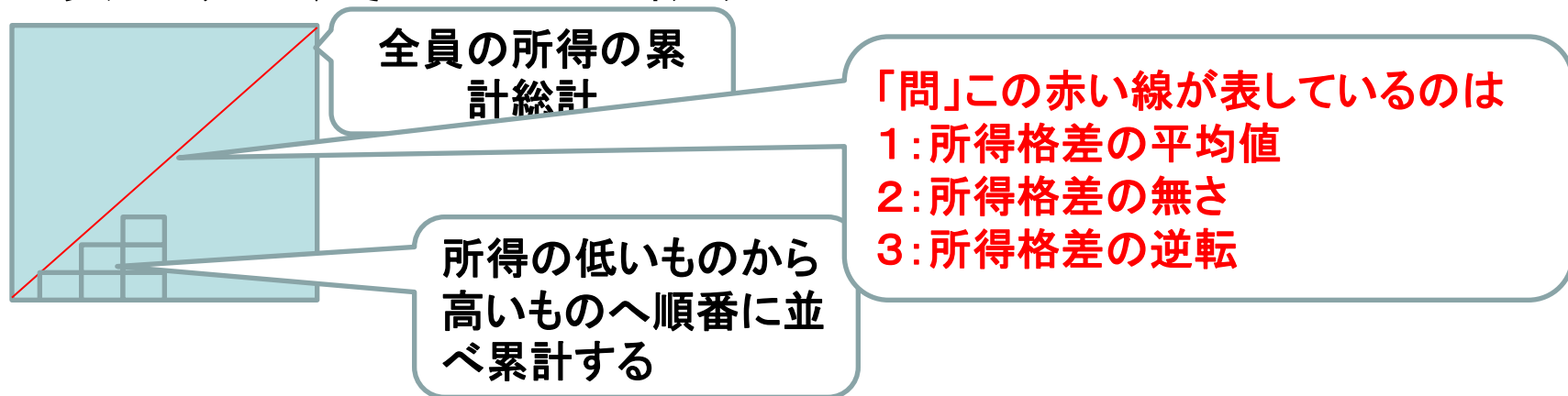
・・ 図解思考力 (小学高学挑戦ok) ・・

1: 「平均値」のウソにごまかされない

「平均50万円の所得」の図はどれでしょう



2: こうしたごまかしを避けるための「図式」に「ローレンツ曲線」があります。そのしくみの説明として正しいのは？



「解答・解説」・図解思考力

1:「解答」・・・全てが「平均」を示している

・・・つまり・・・「平均は個々の格差を表さない」・・・そこで

2:ローレンツ曲線(「ローレンツが考えた」)・・・「所得の低いものから高いものへと並べ累計すると、グラフの右の縦の高さが累計総額となります。

もし、全員の所得が同じなら、累計した傾斜は、中央の45度直線(この赤い線)になります。

もし、貧富の差が大きいと、左では累計しても額は低く、右側の高所得者での累計で累計額が伸びますので、曲線となります。

そこで、この曲線でできた面積と、もとの45度中央線での三角形との面積比を出すと「ジーニ係数」となります。

「小・中学生にとっては・・・超発展」



そこで、「ジーニ係数」(ジーニが考案)は、0から1までの間の数字で表され、0に近い方が格差が少なく平等的となり、1に近いと格差が大です。

・・・「超超発展」ジーニ係数が、0.5を超えると格差への不満で暴動や犯罪が起きやすくなります。では、限りなく0に近い社会がよいかどうか・・・また別な問題も起きます。

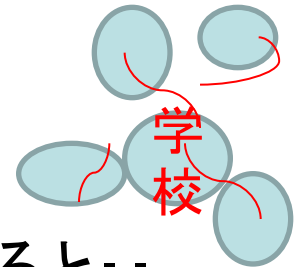
「中継ぎ問題 5」: 超発展

・・ 図解思考力 (高校生以上か) ・・

1: 「マップ・マトリックス・イラスト」の利用・・

① 「A学校の機能」のマインドマップをつくと・・

・・ A学校は、都市郊外の「中学校」としてみる・・



② 「A学校の状況の「SWOT分析」(マトリックス)を作ると・・

S	W
O	T

S = 内部の強み

W = 内部の弱み

O = 外部の支援・チャンス

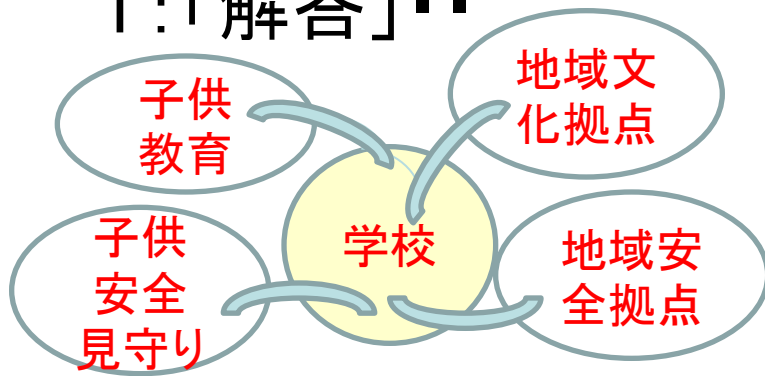
T = 外部の危機・

③ 「A学校の改革」のプランを、イラストにすると・・

「ポイントの絵を数枚描く・・」

「解答・解説」・図解思考力

1:「解答」



2:「解答」・・・後の「FW集」を参照

3:「解答」・・・皆さん各自にお任せ

「解説」 1:学校は、教育以外にも地域の文化や防災などの拠点となろう。また、子供の置かれた状況を見守ることも任務であろう。そのためには、地域の人材との連携が必要。

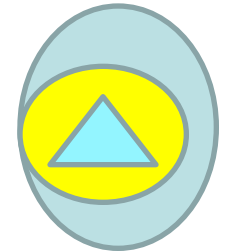
2:「SWOT」分析の後、「クロス分析」(長所や問題の発見)をすると、課題解決への道筋が見える・・・

3:「プラン全体像の絵が描ける」と、みんなの理解が深まります。こうした取り組みで成功した例として、『旭山動物園の作り方』(20枚のスケッチからの改革)は参考になります。

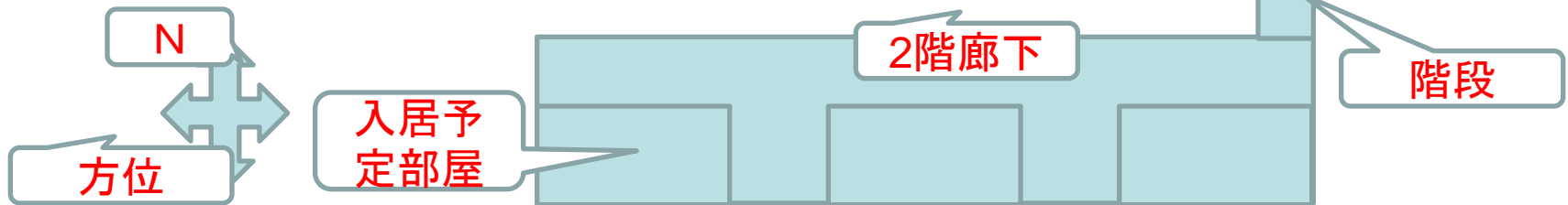
「ちょっと遊び」(コーヒーブレイク)

- ・頭を使って、表現力を鍛えましょう・

1: 次の図を言葉で伝えるにはどう伝えますか？



2: 次の間取りはどう伝えますか



3: あなたの同僚が事故にあった時に、会社にメールで伝えるときの事項での順位をつけてみましょう

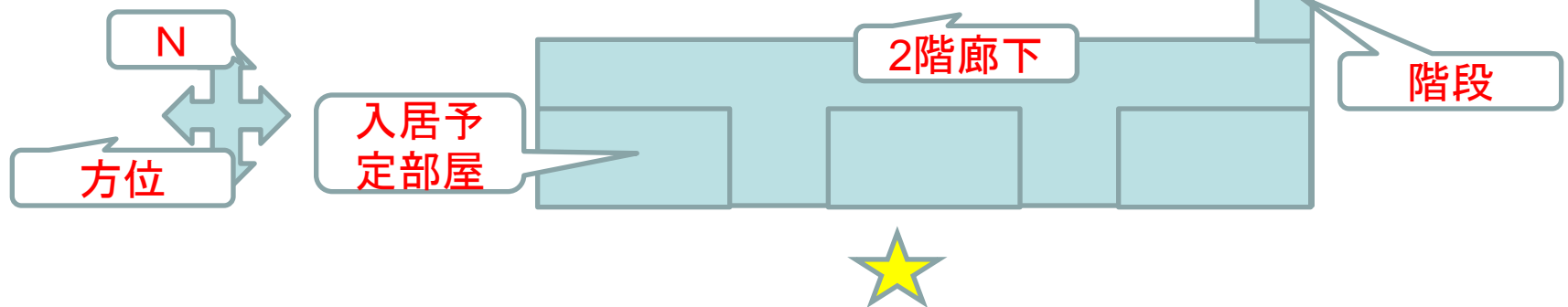
- 1: 事故の場所
- 2: 事故による損傷
- 3: 事故の相手
- 4: 損害責任
- 5: 損傷者への対応
- 6: 事故にあった我が社の当事者
- 7: 事故の時間

「ちょっと遊び」(コーヒーブレイク)

・・・解答・解説・・・

1: まずは全体から・・・「3つの図形からなり、「大きな○の中に小さな○、 その中に△が山形にある・・・それぞれの色は・・・

2: 間取りは、仮にどこかに立ち位置を決めて話を進める・・・



「このアパートの、南側の中央に立つと、入る部屋は2階の3つの部屋の左端の部屋で、部屋の向こうに廊下があり、右側端に階段がある」

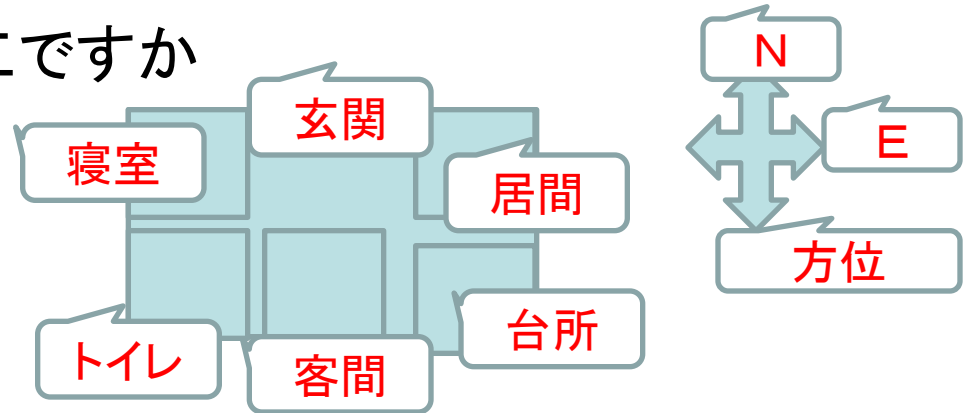
3: メールの順位は、知りことを優先・・・「6: 我が社の誰、2: 損害の状況 5: 対応・・・その他は適宜に・・・」

「ちょっと遊び」(コーヒーブレイク).

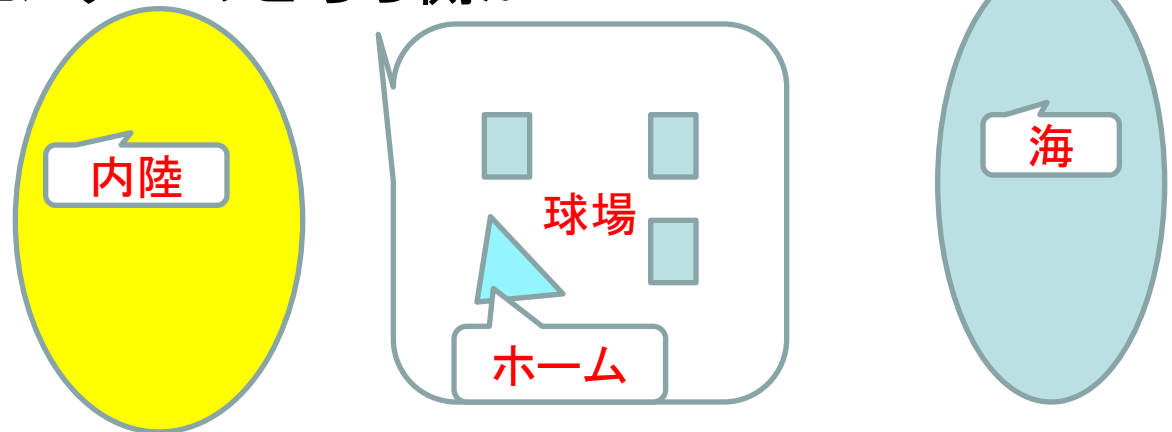
..「風水」?を使って、考えてみましょう..

1: 次の間取りの問題点はどこですか

..ヒント「風水」(太陽と風)
で考えると



2: この球場で、夏の夕方7時以降にホームランが多くなるのはレフト・ライト・センターのどちら側か



「ちょっと遊び」(コーヒーブレイク)

・・解答・解説・・

1: 風水的な思考では、まずは「太陽＝気温」、次に「風＝風向きでチリ・疫病も」、そして「水＝生活用水・大雨への対応」

・・「トイレに西日で温度上がり・・虫の発生」「台所は南向きだが現代ならOK(冷蔵庫があるから)、でも温度上昇で腐食に注意」「寝室は、北風と日差しの無さから冷え性に注意」

・・「風水」は昔では大きな科学理論(現在では「自然科学」)・・こうした科学性にやや心理的な要素(「例えば、北向きの寝室には暖色の壁や置物を・・」など)を付加するが、基本は科学から・・その合理的説明が不足したり誤っているものは避けたい・・

2: 単純な「陸風」「海風」の原理から・・夏の昼は「気温上昇した内陸に海風が入る・・これを利用するので河を帆船で遡るには昼間です」・・「その逆に、夕方からは冷え始めた内陸から温度を保持している海に向かって風が吹く」・・**ライト側**に多くなる

Ⅱ：応用問題（高校生レベル） 1：分析力 分析は分類の前提となる力

1：次のものごとを分類するには、まずそのこと分析から・・・

* 図示の描き方・・・「0(単独「事項」)」・「0+0+0」(ことから)のような図式で分析して示す力が要求される。

① 子供を育てる時に、「用向き言葉」より「言葉のダンス」が良好だといわれるが、その違いを図式化して示してみよう。

a:「用向き言葉」図 b:「言葉のダンス」図

② 「事実と現実は違う」(「百の事実より一つの現実」とは・・・)の分析を図示してみよう。

1:事実の図式 2:現実の図式

③ 「ネズミにとってはチーズはチーズだ」という言葉があります・・・ネズミの認識と人間の認識の違いを図式化してみよう。

1:ネズミの認識 2:人の認識

*

CR:kanaoka

「解答・解説」

- ① 1:「用向き言葉」・「あれをこうして、早く歯磨きをしてなど」の単純な用事の指示言葉で「0・0・0」のように相互関連はない・単純事項の単純暗記・「学校での「単純事項テスト」もこのようなものとなるかも知れません・でも、これで伸びる学力は初歩の段階です(初歩には大切です)、その後は、右のような「関係思考」が必要。
- ① 2:「言葉のダンス」・「これはどうしたらうまくなるかな、この人形はどこが好きかな・」など、子供の自由思考を促進します・その図式は・「0+0+0」のように、さらには「0×0×0」のように「関係思考」ができる図式となります。・「思考力」の育成には必要な力です。
- ②:「事実」は、「そのこと」と「私」との関係はない・そのような図式を・「現実」は「そのこと」と「私」との関係が深い・事実 ●×● 私、事実 ●=● 私
- ③: ネズミは「コンテンツ(チーズそのこと)」については認識あり、人間は「コンテクスト(文脈・つまりチーズを取り巻く状況)」が分かる・その図の例は・
- 「チーズ」そのものは食べ物と知っているネズミ・うまいモノだ
- チーズの認識(ネズミ)
- 状況の認識(チーズの状況は・どういう状態でどこに置かれているの?)・人間は、そこが分かるから罠のエサには騙されない

Ⅱ：応用問題・・・2：分類力

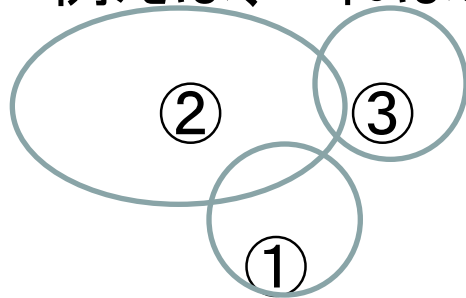
分類は最初の統合

1：次の事項を、3種類の要素の構成を考えて分類してみるとどうなるでしょう・・・「マインドマップ風」に表してみましよう。

a: 小学校 b: 友人 c: 専門学校 d: 大学 e: 家族
f: 会社 g: クラブ・同好会 h: 政党(政治家) i: 政党(政治屋)

・・・「要素」・・・「①利＝利害関係での結合 ②情＝感情での結合
③理＝理論・理想での結語」

「ヒント」・・・例えば、これはどの組織でしょう・・・「情」が大きいから・・・



・・・これは、学校なら「小学校」

「解答・解説」

「解答」・・・①「利」は・・・やはり会社でしょう ②「情」は・・・家族や友人でしょう ③「理」は・・・本来は「理想追求の政党」でしょう
・・・学校では、低学年の学校ほど②「情」が求められます

「解説」・・・実際にはこの3要素は絡み合っていますが、その構成要素の大きさによって、その集団の特色が出ます。

例えば、専門職の集団ほど③「理」の要素が強くなりますので、評価や報償も「理論・理性」的な性格のものが求められます。・・・①「利」の給与を高くするよりも、③「理」となる研修機会が保証されるなどの報償が効果的です。

もちろん、集団の基本は、①「利」抜きでは、生きる糧なしの集団は永続しないし、また②「情」なしの集団は相互不信で内部崩壊します。でも、①が強すぎると「我利」に、②が強いと「情実」に、③が強いと「原理主義」になる。・・・ですから、この3要素をどう配分するかで指導者の力量が問われます。

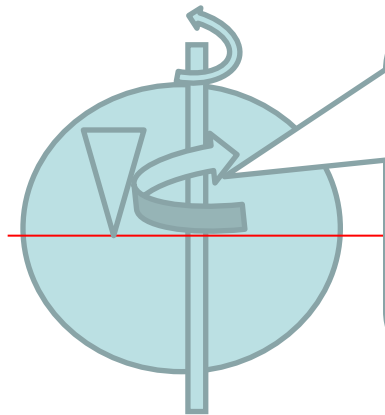
Ⅱ：応用問題・・3：統合・構成力 「知の構造」(FW)の形成

1：地球自転・海流・降雨・気温などの要素をつなげて、気候のしくみを理解してみましよう・・(図解してみよう)

・・「ヒント」・・

地球自転＝東へ・赤道付近は高速回転・海水は反転して西に流れる

その海水・海流＝赤道付近は暖かい・・水蒸気も蒸発大量
海流が当たる島や大陸＝北半球は東側・暖で多雨



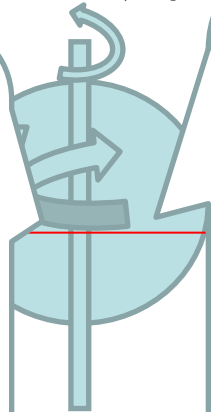
・・相互の関連を順番に整理しながら、組み立てることが必要です・・暗記しようという頭を抑えて、理解しようとする頭になるのです・・
「解説」では、「風」と「季節変化」についても説明していますが、これが理解できると「気候」は把握(comprehension)できます

「解答・解説」

1:下の図のように、海流が流れます。この流れは地球の自転だけから起こるのです。また、太陽が赤道を暖めることで暖流となる。

この2つの原因での①「海流」が理解できれば、気候のしくみの基本が分かります。後の理解は、②「風の流れ」ですが、これは自転と対流、さらに緯度30度付近での渦巻き現象、季節による海と陸の比熱の差の理解が必要です。(ちょっと複雑・・・でも原理が分かれば容易い)、そして③「地球の傾きによる季節変化」(ちょっと複雑に見えるが実は簡単)の理解で、完璧に気候のしくみを把握できます。

③「季節変化」
地軸の傾き(23度余)で、高気圧(乾燥)と低気圧(湿潤)の位置がずれる・・・乾燥と雨とが少しずれる・・・「乾季と雨季だ・・・」



②「風」・・・

* 対流・・・赤道から太陽に暖められた風が上昇・・・30度付近で下降する・・・その風は地上では北と南に流れる・・・北の風は北極から南に吹く風と60度付近でぶつかる

* 流れ・・・30度から南に向く風は、自転の反転で東から西へ。北に向く風は渦巻き現象で西から東にながれる(偏西風)

* 季節風・・・大陸と海・・・夏は大海から陸へ、冬は陸から海へ

Ⅱ：応用問題・・4：結果からの逆算思考力 「知の構造」(FW)の活用

1：いつの時代でも、主要な産業で活動できる人が力を持つということである。

それでは、縄文時代には女性の権利が強い社会であったといわれるが、その社会での主要な産業はどのようなものであったろうか。

①狩猟 ②採集 ③漁業 ④木工 ⑤土木

「ヒント」・・女性の力が活きる・・地位の保持・・そんな産業を想定して、「・・だから 強かったのだ」と逆算思考する方法

2：徳川幕府は鎖国するが、それは何を想定したからそうしたのであろうか。もし、鎖国しなかった時の状況を想定して、そこから逆算してこの鎖国の意味を考えると・・。

「ヒント」・・外国貿易が盛んとなる・・どの地域の藩が裕福になるか・・そうすると幕府との関係は・・

「解答・解説」

- 1: 「女性の有能さの仕事」・・家族周辺の細やかなこと・・縄文時代では「採集」・・その後の弥生時代の仕事は、植え付け・収穫など
(女性は子育てをするので、遠くに出かけたり、争いで危険に巻き込まれない方が家族にとって有利・・それらの仕事は男の仕事となる)
- 2: この時代の外国貿易は、南西からの南蛮貿易が有効(日本からの海産物・銅など・・スペイン・ポルトガル・オランダからの知識・鉄砲・火薬・東南アジアからの香辛料・象牙など)
 - ・・これで、地理的に有利な九州や西国の大名が強くなる・・徳川家への反抗が早まる・・そういう結果を想定して、そこから逆算して「鎖国」していったのだ・・

「さまざまなFW(「知の構造」)紹介」 ・「演繹思考」(逆算推理思考)のすすめ・

- ・・これまで学習したように、ある程度の学習が進むと、知識を整理してそれを掘り下げ「知のしくみ・FW」に至ります。
その後はこの「知のしくみ・FW」を活用しての「逆算思考」により、新しい事項に対しても素早く解読できるようになります。
。
- ・・一般に、こうした頭の働きが「賢い頭」ということとなります。
- ・・そのためには、できるだけ「質の高いFW」を「できるだけ多く」持つことが求められます。
- ～ これから、皆さんで、自分の得意領域で「そのようなFW」を作成しあい、互いに学びあいましょう
～まずは私から作成を・・・(社会・文化系が中心となります)

「説明」

- ・学校で学習する基本的な事柄「規則的なもの・法則的なもの」は「しくみ」(構造)と関わっています。ものごとは「しくみ」なしには成り立ちません。この「しくみ」を理解することで多くの「FW」を得ることがきます。・「何事にも理由としくみがあります。理由がないように見えるときにも、『見あたらない』という理由があります」・
- ・さて、次にその「しくみ」と「FW」を紹介しますが・
- 1:「領域の設定」・①自然科学系・科学合理」・②「社会科学系(社会的ルール・経済効率)など)・③「文化系思考・心理的効果」など)・3つが関わるときには「総合」とします。
- 2:「難易度の設定」・☆の数による(1~5まで)、難易度・「1~2」=小学生も挑戦、「3~4」=中・高校生も可能、「5」=大学生・大人の段階 です。

「FWとは」・・・思考力があるYさんの知力状況

・「仕分けの道具」のレベルの高さと多さが「よい頭」のきめ手

「総合
・教育」
☆☆

「答え」を考えだそうとするYさん

レベルの高い「道具(FW)」
を所有し、
それを使い、応用問題を解く

知識・情報
量が多くな
る・・・

スピード処理力
(仕分けと整理)

スピード対応力

- ①「新しい問題の仕分け」
・・・仕分け道具を利用し、ポイントを発見する・・・
- ②「解答」を出す(こうすればよいだろう・・・)

Yさんの頭は・・・だから、賢い・・・

◎「スピード処理」(学習)・・・分析・分類処理のための「FW」を使用する

◎「スピード対応」(判断)・・・物事への対応(判断)するために「FW」を活用する
・・・賢さのポイントは「FW」の量と質である。

「解説・使用説明」

1:「FW」を使える段階のYさんの学習状況です。

- ・・質の高いFWを多く持てると学習力が高まります・・
 - Yさんの頭は・・・だから、賢い・・・
 - ◎「スピード処理」(学習)・・・分析・分類処理のための「FW」を使用する
 - ◎「スピード対応」(判断)・・・物事への対応(判断)するために「FW」を活用する
 - ・・賢さのポイントは「FW」の量と質である。
- * 自分の学習が行き詰まった時に、この図式を思い出してください

Aさんの知力状況FW

・「知識」はあるが、「分析・分類・整理力」がない・

今日の
「知識」
の暗記

そもそもが「答えを貰おうとしている」Aさん

「知のFW」は小さい

残らない・・・なぜなら・・・
「理解していない」から・・・
(Aさんは、まじめそうに見えるけど、
「分かっていないのだよね」ということ)

数日後の
「知識」は
しぼむ



「本来持っているべきFW」

- 1:「自然科学的FW」
・重力・熱・イオン(酸・アリカル)など
・その奥には分子構造・原子構造がある
- 2:「社会学的FW」
・社会システム・人間行動・
- 3:「文化学的FW」
・心理構造・真善美意識・

「解説」 Aさんは・・・知識はあるが、整理できていない・知識と知識の関連がない・知識の背景がない。・・・それが、先のYさんになるには、次の2つの「わかる」ができること。1つには、「そのこと」が分かる・・・これにも、「知のFW」を使っての「分解・分析」の力が要ります。2には、「そのこと」と他のこととの関係や全体の位置づけでわかるということです。これにはかなり高度な「知のFW」が求められます。これについては、前者はunderstanding 後者はcomprehension ともいわれます。

「解説・使用説明」

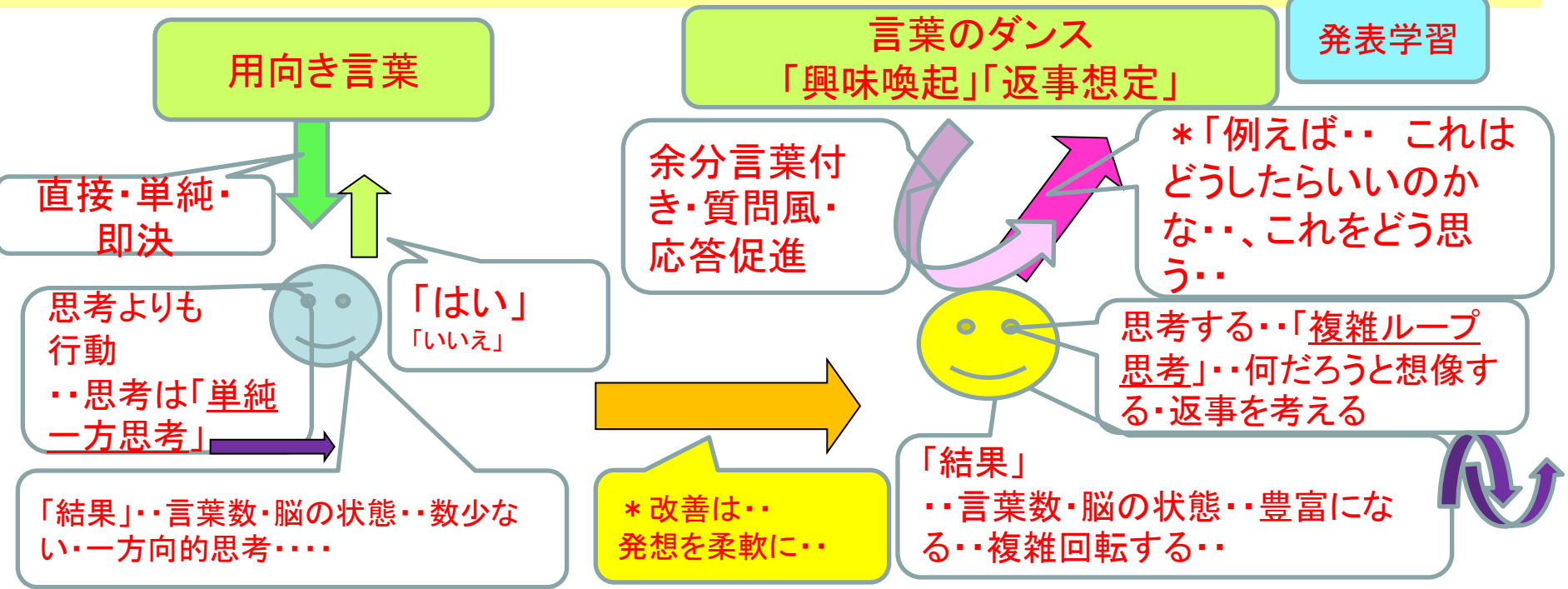
1: 「FW」を使えないAさんの学習状況です。

Aさんは・・・知識はあるが、整理できていない・知識と知識の関連がない
・知識の背景がない。・・・それが、Yさんになるには、次の2つの「わかる」
」ができること。1つには、「そのこと」が分かる・・・これにも、「知のFW」を
使った「分解・分析」の力が要ります。2には、「そのこと」と「他のこと」
との関係や全体の位置づけでわかるということです。これにはかなり高度な「知のFW」が求められます。これについては、前者は
understanding 後者はcomprehension ともいわれます。

* 先のYさんと比較して、自分の学習が行き詰まった
時に、この図式を思い出して、Aさん状態から抜け
出しましょう

「Output できる頭」を考えるFW ..こどもの育成の方法..

考える力は言葉と結びついています。でも、その言葉も2種類あり、ある種の言葉は、思考力を育てないのです。では、思考力を育てる言葉とは..



(参考)..日本の学校の多くが、「用向き言葉」を軸にしてきた(後発資本主義・後発市民社会では、先進国に追いつくには「思考」よりも「模倣行動」だ..1980年からその限界が分かってきて、変えたいと思っているが..「日本教育の学力論の背景にこのようなことがあるとしたら、その根は深い..)

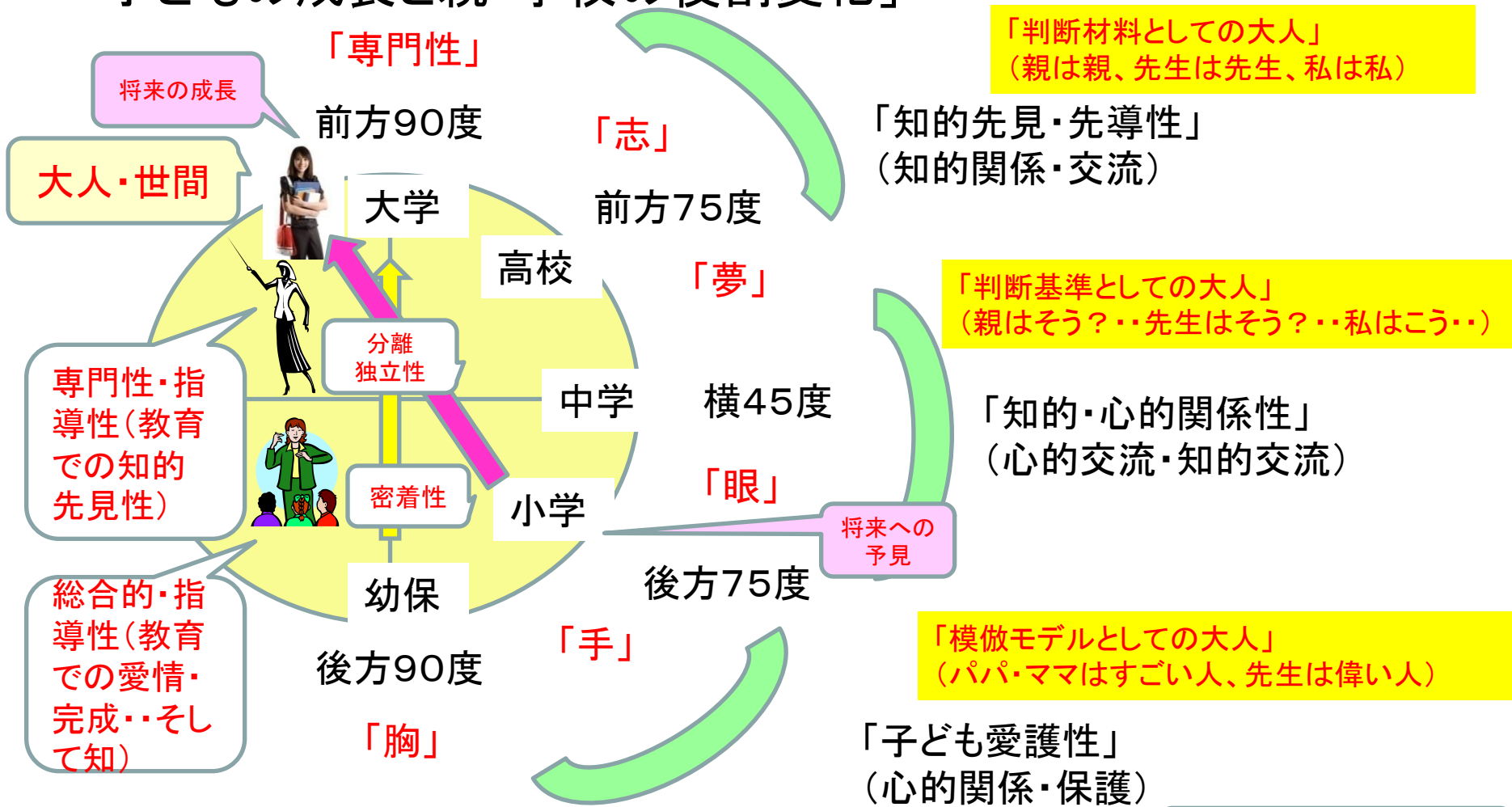
「解説・使用説明」

- 1:これまで、先進国のマネが主流であった日本の教育では、いかにして最短で答えに行き着くかが重要であり、また、大衆に主体的思考をさせないためにも、答えを押しつける教育が主流であった。・・ここでは「用向き言葉」が効率的。
- 2:その改革が求められている・・「知識集約・高度産業社会」「成熟市民社会」
 - *「生徒指導」では、「用向き言葉」＝「しつけ」の段階・・これを改善して、「言葉のダンス」で「生き方」(人生観)を思考・・
 - *「学力論」では、「用向き言葉」＝「答え」だけに終始する段階(だから答えを覚える授業・学習「3R・PL型」)。それでは・・
「言葉のダンス」の授業・学習では・・・どうしよう？
学習は「3X・AL」、教師は「F・Pの役割」に・・ **これが重要**・・
・・(学校や教師は答えを教えない、答えを考えるよう導く)

「子どもの発達段階と親・教師の相関関係図」 FW …どの段階では何をポイントにすればいいだろう

「総合・教育」
 ☆☆☆

「子どもの成長と親・学校の役割変化」



「解説・使用説明」

1: 子供の育成のプロセスを明示したもの

・「成長は指導者との距離感だ」との言葉がありますが、「密着・従属から分離・独立へ」、「具体から抽象へ」という流れです。

*「利用」・大学生でも、独立性が低く、学習での指導者依存度も高いのです・学力低下の遠因・特に大学生が自覚するために使用のこと・

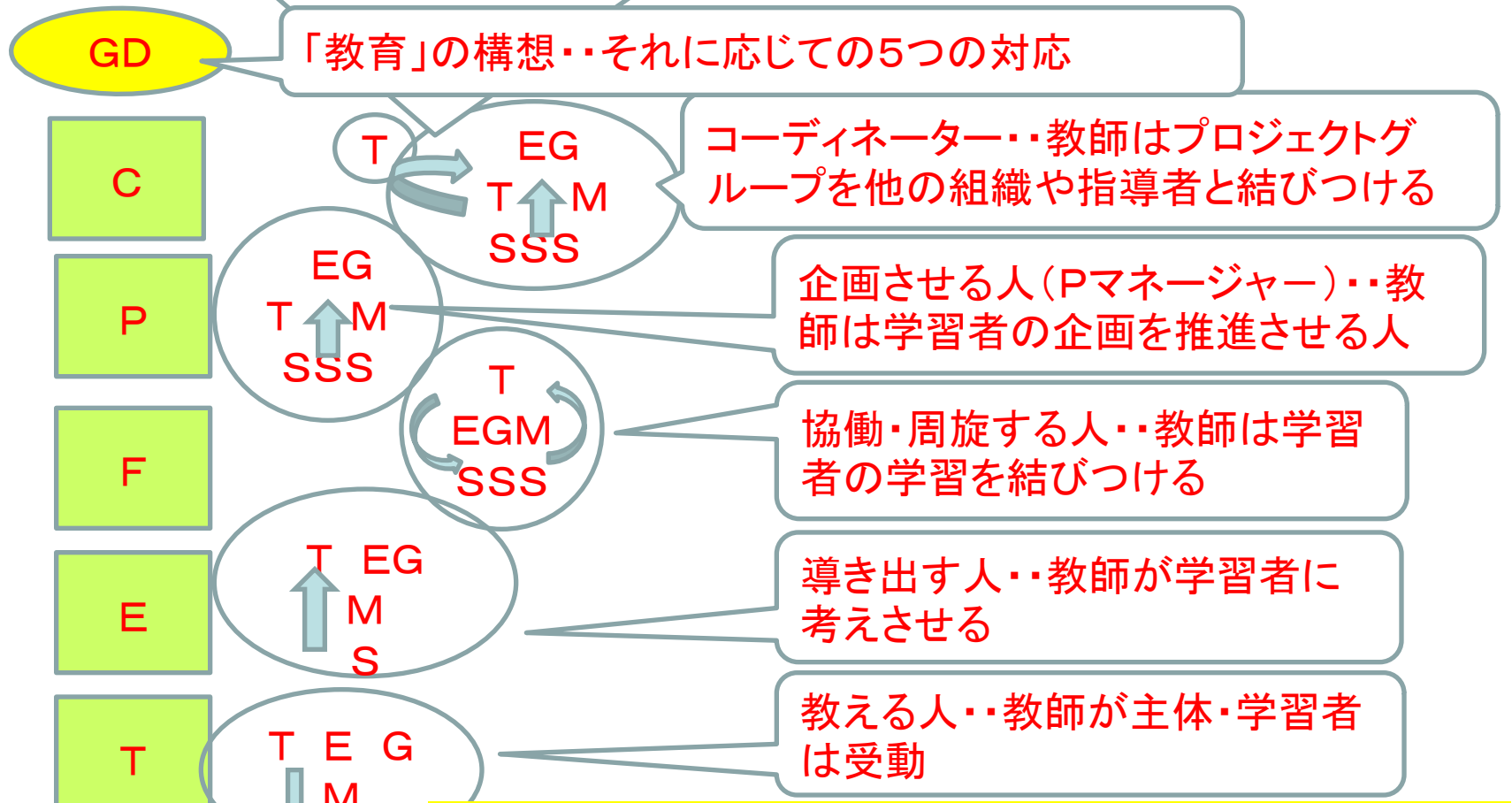
・とかく、学校・教育者への要求が、子供の幼い頃の「密着・従属」「具体」の段階に留まっています。(親も、いつまでもこの意識から抜けられないと、分離ができず、子供の成長はありません)・30歳過ぎた子供の非行も親の責任?・日本社会が「超過保護・超密着社会」に陥っています・

「子供を育てる教師・・・5の役目」



「T・E・F・P・C」の仕事・・・子供の育成・成長

「図式」: 教師と学習者・・・T(教師) S(学習者) E(目的) G(目標) M(教材)



「よく分かる授業」は、Tは頑張るがSは受動・・・Tは賢くSはそのまま・・・「よく分かる」は学習の「試練」がない(バリアフリーorフラット)状態になりやすい

「解説・使用説明」

- 1: 子供の育成のプロセスのための教師の役割を明示したものの
 - ・「成長は指導者との距離感だ」との先の言葉のとおり、「密着・従属から分離・独立へ」と教師の役割も変化・成長しなければならない。
 - ・特に、ファシリテーターでは、学習主導権を、生徒・学生へと移行させ、さらに、プロジェクトマネージャーでは、生徒・学生が「プロジェクトプラン」を立てるための援助者となることで、彼らの主体的な学習をさらに進めるのです。ここが一番重要ですね。
- * 「よく分かる授業」のために、教師だけが頑張って空回り・・・自分の授業を再考する時に利用。

「人間の内面理解」・成長と相関 マズローの欲求段階説

「総合
・文化教育」☆☆

「欲求段階説」

自己超越欲求

自己実現の欲求

承認・認知の欲求

所属と愛の欲求

安全の欲求

生理的欲求

自分の最適な実現

高次: 自己の認知評価
低次: 他者からの承認
(世間評価への迎合も)

人間関係の受け入れ

保全・健康・経済性

食事・睡眠・排泄・

他者への感情
世界への深い
洞察力

①Physiological need, ②safty need, ③sosial need(love and belonging), ④
esteem, ⑤self-actualization・・・◎self-transcendence

参考・・・生徒指導では、所属と愛の欲求がポイント(具体は衣食住)・・・学習指導・進路指導では、承認認知・自己
実現へ、人格育成では、自己実現から自己超越へ

「解説・使用説明」

◎: 超有名なマズローの欲求説です。個人の心の基本的な理解には役立ちます。・・・子供から大人への成長にともない、欲求段階が上がるのですが、基礎は、衣食住の物的保証と社会的な安全の保証です。・・・ですが、この欲求の上に、様々な社会的欲求や人間的心理・文化的欲求が重なるのですから、人の育成に関わる仕事(教育や人事考課)では、かなりの考察と配慮が求められます。・・・とかく、人事考課では、画一的に、物的保証(給与改善)に焦点化しています。もちろんこの金銭評価が「社会的認知」にもつながっているのですが、それなら、もっと別な表彰のやり方もあるでしょう。・・・「専門職」には「功績顕彰」や「研修の機会」の授与の方がベターでしょう。子供育成でも同じ原理です。「あめ玉や小遣い」ちょっと進んで「順位の優劣」での学習動機付けよりも「学びのおもしろさ」が本質です。

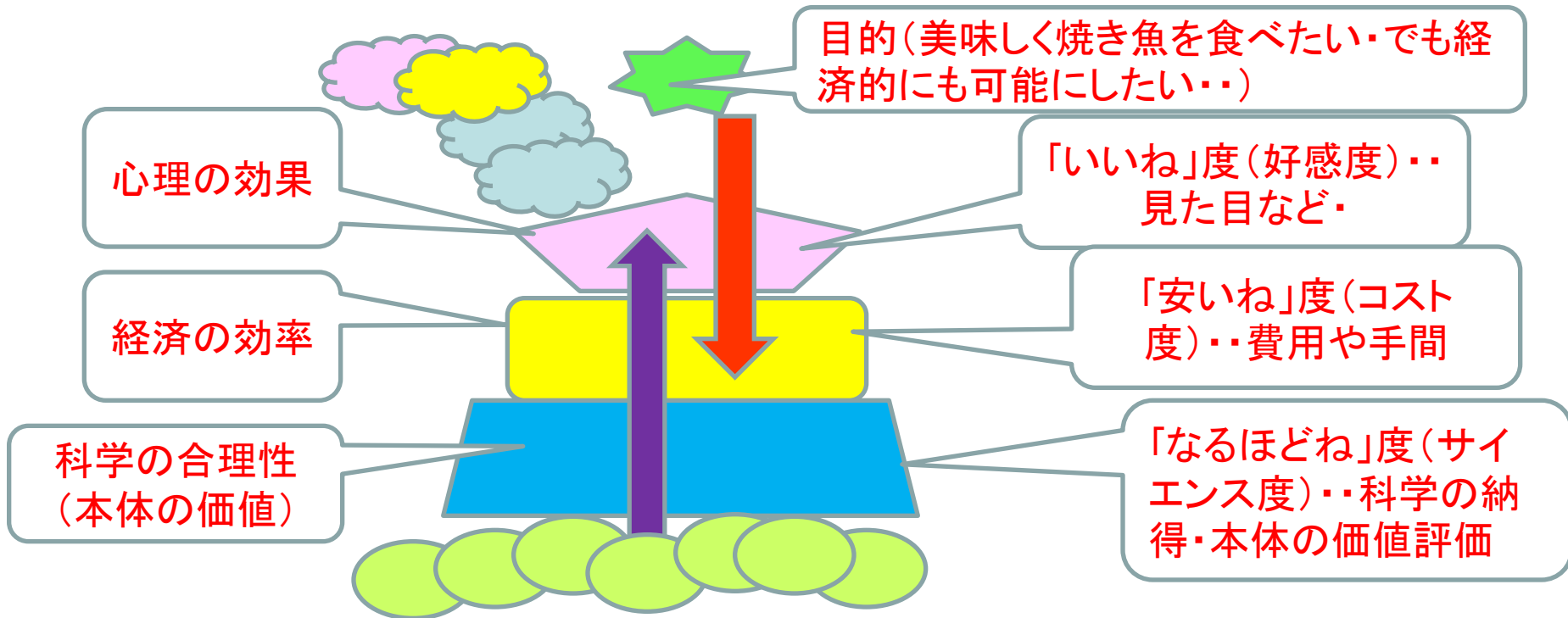
* 単純な「欲求認知」的評価の時に、この表で人間理解を深めるよう再思考するために利用

「分析のための3つの切り口」

「焼き魚」をのせる皿の選択・・・3つの要素

「総合」
☆☆

◎3つの切り口・2つの思考（下から・上からの方向）



「補足」

* 3つのつながり＝「科学・経済・心理」(理論分析が可能) 実際にはさらに、社会や政治的な動きもからみ複雑になるが、この分析が基本であり、不可欠。

* 2つの思考方向＝事例分類からの推理(帰納型)・法則理論からの推理(演繹型)

「解説・使用説明」

- 1: 「FW」を造るときに重要な分析力解説シートです。
「科学合理」「経済効率」「文化・心理効果」の3つの切り口があると分析力が飛躍的にアップします。
 - ・・例えば、焼き魚は温かい保温力のある陶器皿が科学的には正しいのだが、実際には磁器皿が使用される・・それは経済効率(こちらが扱いやすいなど)、さらにビールの低温維持にも陶器が良いのだが、見た目からグラスとなる。・・経済効率からしてもグラスの形状は非効率なのに・・
- 2: 思考の方向は、目的に向かう「帰納法」(下から上)と、目的から逆算する「演繹法」(上から下)とがあります。
 - * 分析の基本的手法です・・常に意識するために、壁に貼っておくと良いです。

「プロセス分析の切り口」の3面

「総合」
☆☆

・・・過去・現在・未来・・・

テーマ:「旅はひとを成長させる」での小論文を書くとする・・・

1:主張の提起:「起」=旅はひとを成長させる・・・Dさんがそう」

・・・2:「承」) = 「確かにDさんは成長した」

3:「展開」=どうしてDさんは成長したのだろうか

・・・旅のプロセス分析を行い、旅で人が成長することを「知心体」の要素から理論展開する・・・(ここがポイント)



「解説・使用説明」

- 1: もう一つの「FW」を造るときに重要な分析力解説シートです。・・時間経過(時系列)は、過去・現在・未来です・・単純な切り口ですが、分析には役立ちます。
 - 2: また、人間の分析は、「知・心・体」(「知徳体」)の3点から検討すると分析しやすくなり、論理的思考が可能となります。
- * これも、分析の基本的手法です・・常に意識するために、壁に貼っておくと良い。

「太陽と地球と文化」(「総合型のFW」)

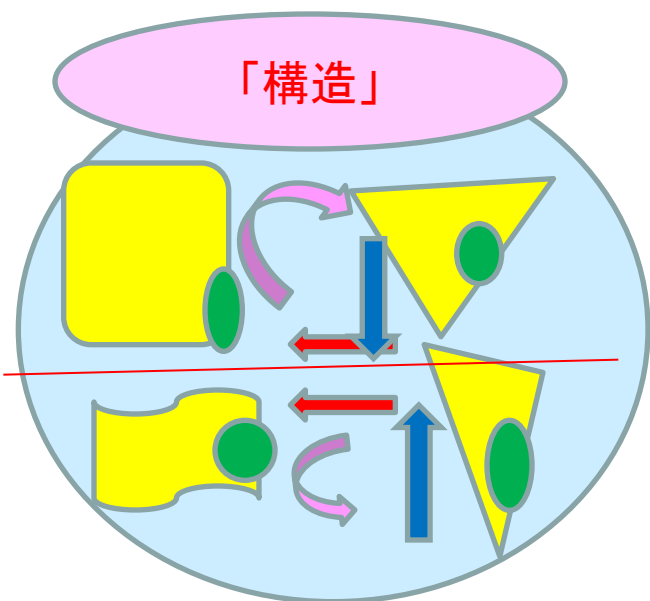
「社会」
☆☆☆☆

「雨と気候」から文明・文化論へ

☆ CR:kanaoka

「構造」から「構想」としての文明論

「地図」



「原理」

「道德・宗教」

「和」「身近な神」
「独立」「天の神」

多い・少ない

水蒸気

降雨

海

暖流・寒流

多い・少ない

産業・社会

定住・移動

* 赤は定住型・黒は移動型

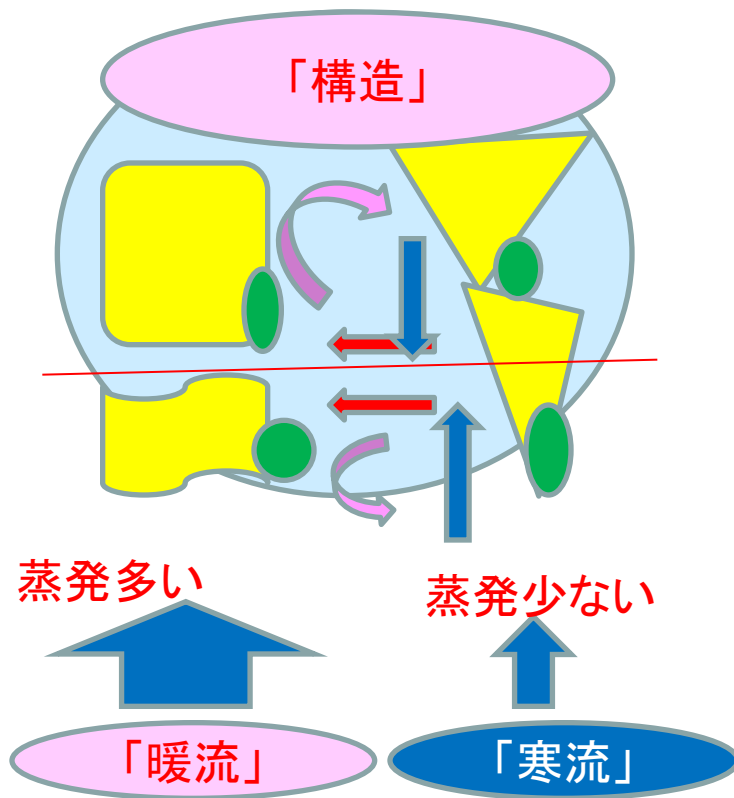
稲作・放牧

「構造」・・・自転により海流が決まる・・・海流の温度で雨量が決まる・・・地球上の位置で気温が決まる・・・その場の産業が決まる・・・またそれで社会の様子も影響を受ける

「社会の様子と文明論」・・・気温が温暖で雨量があると、農業が盛ん・・・その地に住みやすくなる・・・定住型社会となる・・・女性の活躍(子育てを農業従事)・・・女性の地位が保全・・・道德も定住型(皆と仲良く「和」)・・・神も定住型(土地の神様)・・・意識も定住型(ふるさと意識・世界意識にはなりにくい)

「補足解説1」・先の「総合FW」理解のための 理解基礎・「雨と気候・海流編」

「地図」



「解説」

海流は、地球自転で起こる・海面での流れは、自転の反転で東から西へ、島や大陸があるとそこで北上し(北半球の場合)、赤道の暖流が北に流れ、暖かい水は水蒸気を生じて、雨を多く降らせる。だから、大陸の東岸は暖かく多雨となる。

反対に、大陸の西岸は、赤道に向かって極からの海流が流れ込むので、寒冷で水蒸気の蒸発の少ない気候となる。(水平対流)

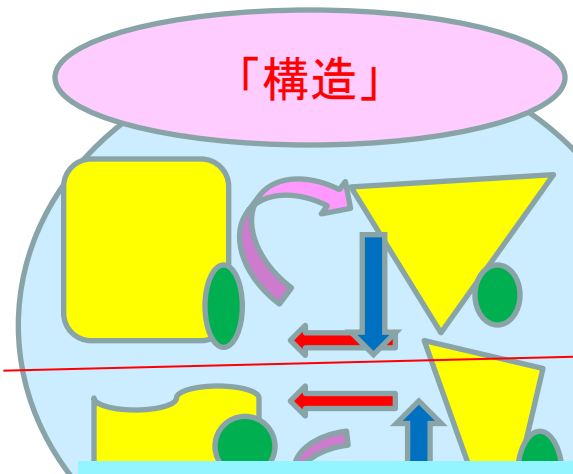
(上下対流は温度差でそれなりの大きな動きがあり、海底では極から赤道に流れる大きな流れがある・潜水艦ではこの流れが重要・垂直対流)、

☆ CR:kanaoka

「補足解説2」・先の「総合FW」理解のために 「気候と産業・居住」

☆ CR:kanaoka

「地図」



「解説」

- ①気候が、温暖・多雨なら、農業が可能で、定住するようになる。・・移動というのは大変(財産の蓄えが出来ず、しかも、敵にあうこともある)
- ②そうして村(群れから発展)が出来、住民は永く同じところに住むこととなる。しかも、かなりな数が集まるので、孤独的な生き方は出来ない。
- ③ここでは、他者との協力が必要となり、「我」よりも「和」の道徳が尊重される。「個の独立」はどうしても後となる。大陸東岸の文化は「協力」文化だ。

「解説」・・それに対して、

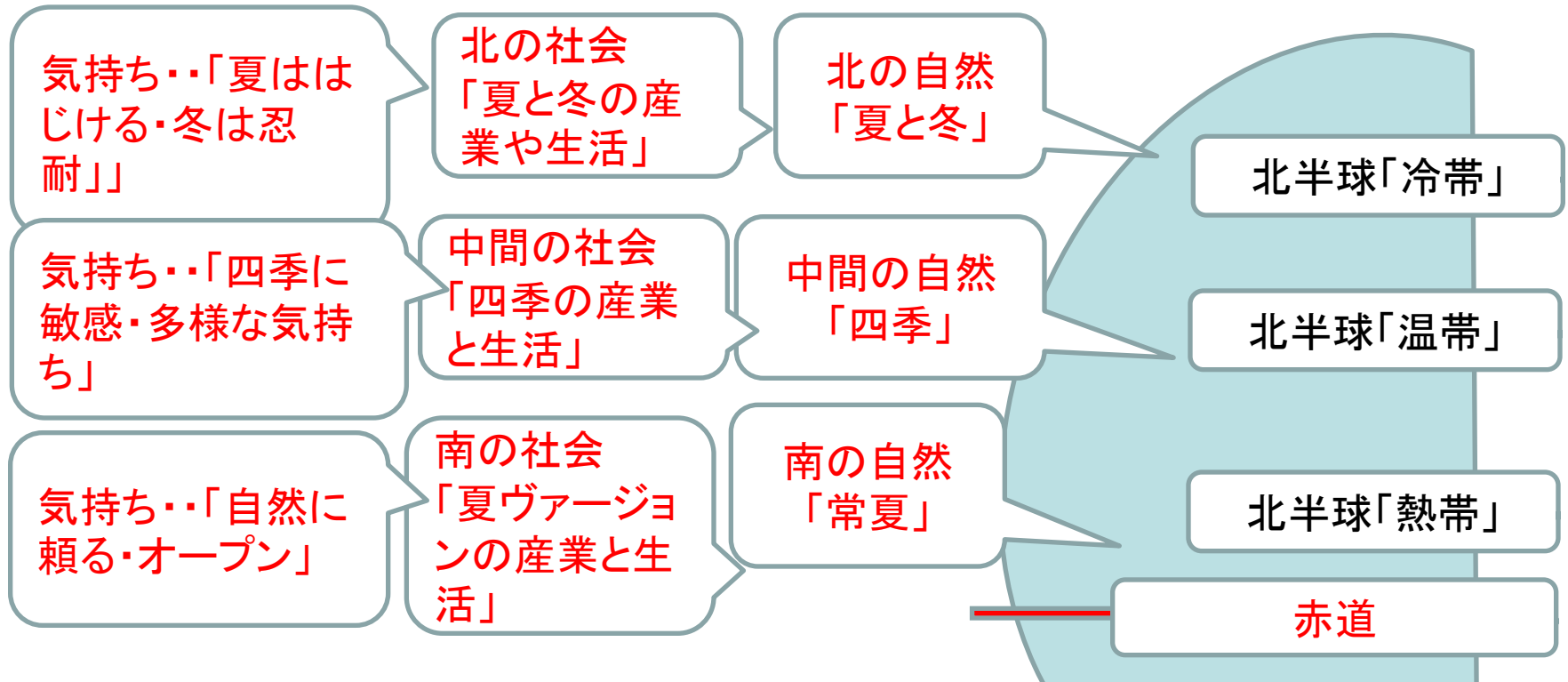
- ①気候が、冷涼か、小雨なら、植物の生え方もまばらとなり、人は定住することがむつかしく、移動型となる。
- ②財産を持ち歩き、敵との遭遇に構え戦闘的になる。
- ③意識や文化は、「個の独立」「他者との競争」となる。
- ④ついでに、信仰で崇拝する神も、土地を離れて「天」に居ることとなる。(天はどこにいても在るから)

「補足解説3」・先の「総合FW」理解のために

・暗記だと思っている地理学習の改善のために利用を・

・地球の場所を「自然・社会・心理」で見る

☆ CR:kanaoka



「問題」・次の問に北・中間・南で考えよう・ ①服がよく売れるのはどこ？ ②「光」の文化（ランプの発達）はどこ？ ③北の人が南に行った時に気を付けることは？

国語学習 「漢字のしくみ」FW

「文化」
☆☆

☆ CR:kanaoka

「中国の歴史」
夏・殷・周・春秋・戦
国・秦・漢・三国…

「漢字ワールド」
* 甲骨文字…

「中国文化・思想」
* 詩経など
* 儒学 * 道学 * 法学 * 仏教
学など
* 文学など

「六書」
漢字の成立と分類
『説文解字』許慎などから

始まりから
考える

①象形
(具象)

②指事
(抽象)

③会意
(合成)

④形声
合成
(義符+音符)

⑤(転注)
用字法

⑥(仮借)
類似音借
用

漢字の具体的「形」
から…(山・水など
いろいろ)

漢字の発展
抽象概念
(上下など)

漢字の発展
「意味」合成
(林・森・看など)

漢字の発展
意味と音の合成…「記号」に
(視・創など)

*

「解説・使用説明」

- 1: 漢字はなかなか覚えにくいものです。それを学習させるのに、何回も書かせる「習得的」な方法も必要な時もあるでしょうが、「探究型」の思考方法が育った頃からは、漢字のしくみの理解からの学習も求められます。・・興味・関心を持ち意欲的に学ぼうとなるには、やはりしくみの理解が不可欠です。
 - ・・このFWシートは、学習方法の改善を迫るものです。習得しさせない指導者にその改善を迫るときに利用してください
- 2: しくみの基本は・・現象をかたどった「象形」、その象形を組み合わせて複雑なことを表す「会意」、形で表せない概念を位置を表す点などで示した「指事」、意味と音を組み合わせた「形成」です。(これについては「ネット」に豊富に情報あり)
- 3: ついでに、文字の発達の歴史(甲骨文・金文・篆書・隸書・草書・行書・楷書)についての理解があるといいですね。

「国名の成立 FW」

「社会」
☆☆

・・国の成り立ち・国の呼ばれ方・・

*

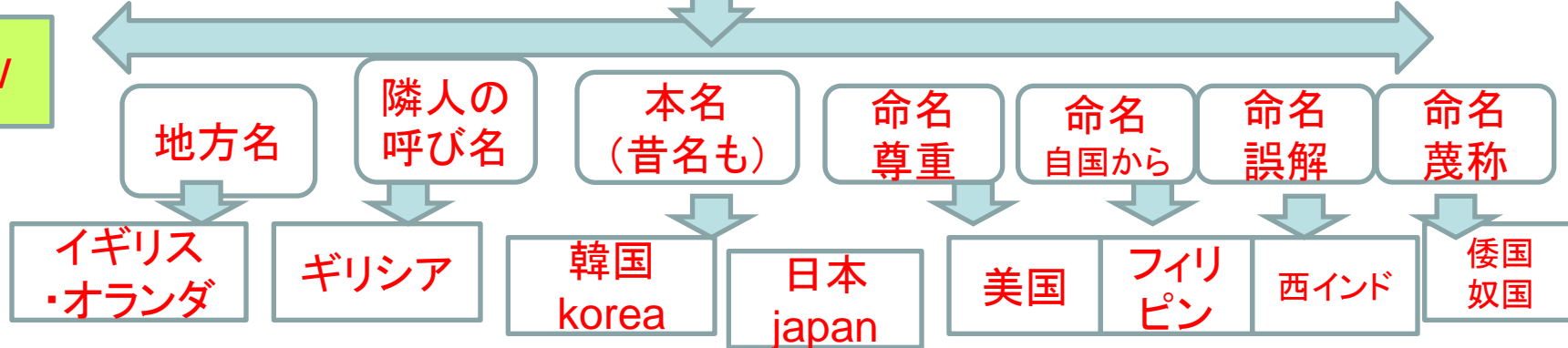
「国の成り立ち」と国名・国旗

「国の呼ばれ方」
* 本名との乖離・その理由

「国の民族・言語・社会・産業」

「分類」

FW



☆ CR:kanaoka

「解説・使用説明」

☆ ものごとは、始原から理解するとよく分かる

・・(これはすべての探究に通じるものです)・・

1: 国名の例でも、その始まりから考えるとこのように分類できます・・ そして、その始まりの動機を知ると、さらに理解が深まります・・

例えば、USA(アメリカ合衆国)は、本当の訳は、stateだから「州」なのですが、それを「衆」にしたのは、明治維新前に討幕運動をしていた若者達の「日本は身分固定化した特権武士が権力を握っているが、アメリカは民衆が造った国だ」という思いがあるからということです(こういう説があります)

・・「命名時」の状況を知ることによって、何倍もの情報がつながって理解できます。・・「しくみ」の「始まり」の探究は大切です
・・

「社会」
☆☆

「お金の話し」・・身近な経済から ・・社会科学習 「お金」のFW・・

*

お金とは・・・

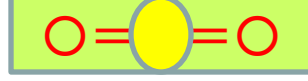
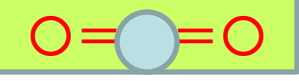
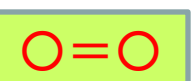
☆ CR:kanaoka

価値の蓄え
・・具体から抽象へ

交換の手段

価値の尺度
・・具体から抽象へ

「物物交換」 ・・ 「物品貨幣」 ・・ 「金属等貨幣」



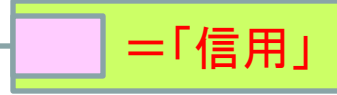
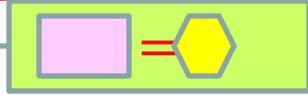
交換物・・数字
へ

「金属貨幣」の発展・・秤量貨幣・・鑄造貨幣へ



「抽象通貨への道」

・・「紙幣」へ・・兌換紙幣・・不換紙幣・・・・「数字」通貨



数字
10000円
どこかに記録

物
金属
紙片
数字

「倉」
から
「壺」
そして
「算笥」
さらに
「銀行」へ

「解説・使用説明」

「おかね」のしくみの理解・・・身近なところからの「現象から本質へ」の頭の体操に利用・・・

1: はじまりから・・・必要性の順に並べてみます

・・・ ①「交換」・・・②「価値尺度」・・・③「蓄え」・・・

①「交換」の分析・・・ 普遍性＝皆が欲しがる 安定性＝腐食しない
利便性＝運びやすい

②「価値判断」・・・ 普遍性＝皆が認知 安定性＝場と時間でも不変

③「蓄え」・・・ 安定性＝腐食しない・不変 安全性＝侵害されない

2: 本質探究・・・

具体物(物品)から抽象物(貨幣)・・・さらに抽象物(紙幣)へ、もっと抽象度の進化(紙幣「兌換」から「不換」・・・さらに「数字」へ)・・・

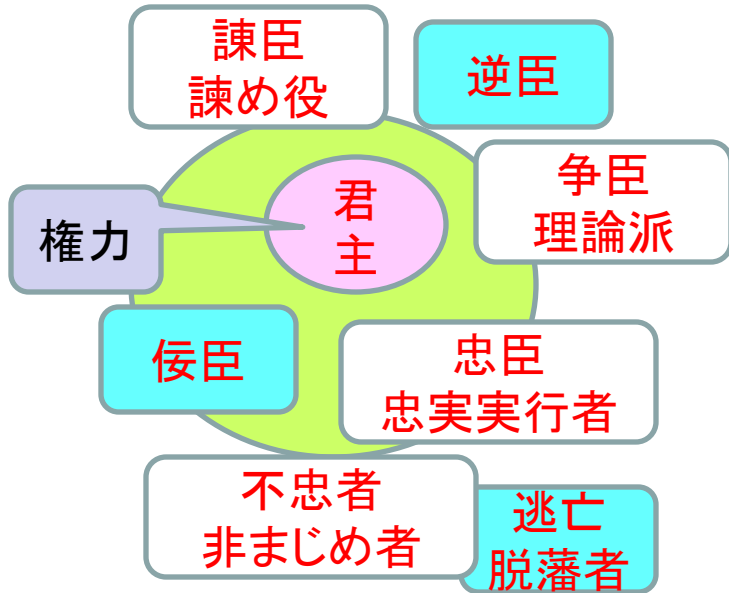
「数字」＝普遍・安定・利便・安全になる・・・という思考が理解できる・・・

・・・数字だと「カード化」が可能・・・現金支払い不要・持ち歩き不要

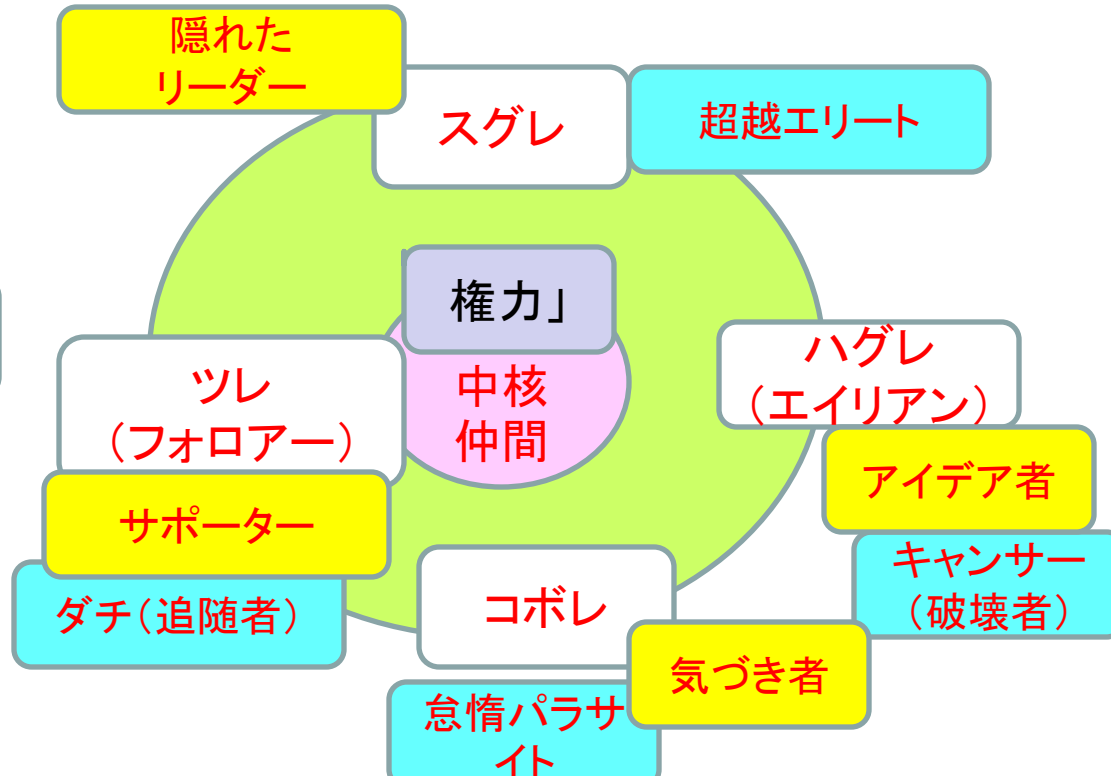
「集団理解」(仲間の分析)

「社会・文化」
☆☆☆
☆☆

組織図 「王国・藩」



「現代社会」



「解説」 組織には、3つのタイプの手ズレ(異質者)がいる。中核の同質者だけで組織運営を行うと、状況が通常状況の場合はそれでよいが、変化の時代には対応できない。その時に、3つの異質者が役に立つ。・・子どもの育ちを保障するにも、幅広い人材観が必要・・

「解説・使用説明」

☆:このシートは、高校3年生以上で、何らかの組織(クラブ・生徒会)の役員を経験した人を対象とします。大人なら、多くの方が、組織の中で苦労しているので、理解は容易いでしょう。..確かに、「人間の組織ほど複雑なものはない」..という人もいますが、基本形は割と単純です。ただし、これらがどう動くかによっては複雑になりますし、対応はもっと難関です。

1:組織は中核の人が運営しますが、その周りにはハズレの人が必ずいます。スグレ・ハグレ・コボレですが、かれらをどう活かすかが組織力です。昔の藩の時代にも、忠臣・諫臣・争臣・逆臣がいたのですが、忠臣だけをかわいがると、彼らは佞臣(イエスマン)となり、組織は過ちます。かといって、逆臣を放置したのでは組織崩壊です。

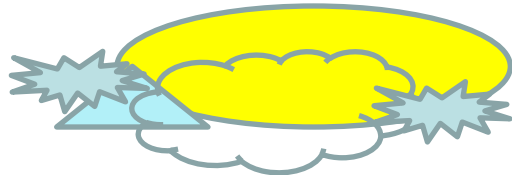
..どのような状況で、どの人材をどう活かすか、運用はむづかしいですね..でも、まずは理論から理解するしかないでしょうね。

「組織分析」

・・権力と組織形態・・

「自由フラット型」

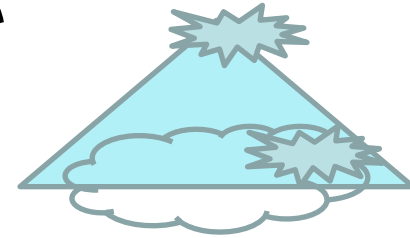
◎自由、権限(権力)・権利平等、内発的、議論進展



▲権力分散・決議・決定力は弱、同僚圧力に弱い・コピー化、陰の権力発生(隠れボス)

「秩序統制型」

◎責任・権限明確、分業化、意思決定素早い



▲権力集中(資金・情報・人事の独占)、不自由、外発的(内発弱い)、権威主義的、縦割り指導、連携不足、面従腹背(陰の反抗勢力発生)

「左図」・・自由型は、理想に見えるが、実は不安定・責任不在・内部対立の調整不可、時に陰のグループボスが誕生する

「右図」・・秩序統制型も、表面は安定に見えて実は不安定・権力者の専制・内部矛盾を抑圧しているだけなので、何らかの危機的状況ではそれらは非協力・時に暴発
・・両者とも、優れた他の組織との競合では不利・敗者になる(「歴史が証明」)

「解説・使用説明」

1:権力は、「資金・情報・人事」の3要素から成り立ちます。

資金＝施設のインフラ・組織員動員・軍事力になります。

情報＝将来見通し・組織員人心掌握・知的優位・・

人事＝組織人配置・人心掌握・有能者育成選抜・・です。

・・これらがどこにあるかで組織形態が決まります。トップに集中すると、「専制型」に、大衆に分散すると・・うまくいけば「民主主義」に、悪く行けば「衆愚政治」(ポピュリズム)になります。

* 専制型・身分制型・・資金は一族か独裁集団(00党)、情報は官制メディア・報道自由なし、人事は一族か特定集団・能力育成も・・(昔の科挙も実質身分制で維持、現在のC国は受験は自由化に見えても大学入試での地域格差という見えない壁があるそうです・・ホントこれで大国か?)

* 大衆無原則分散・・無能・無責任者による衆愚政治(権限ばらまき)・・(古代アテナイの末期・・現代A国のT・・?)(・・18歳選挙権はどう?・・)

「組織の要素分析」

「社会・文化」
☆☆☆
☆☆

・・利害・情緒・理論・・その3分割図

1: 組織文化の要素・・組織の特長と評価方法

A組織 = 教育機関・

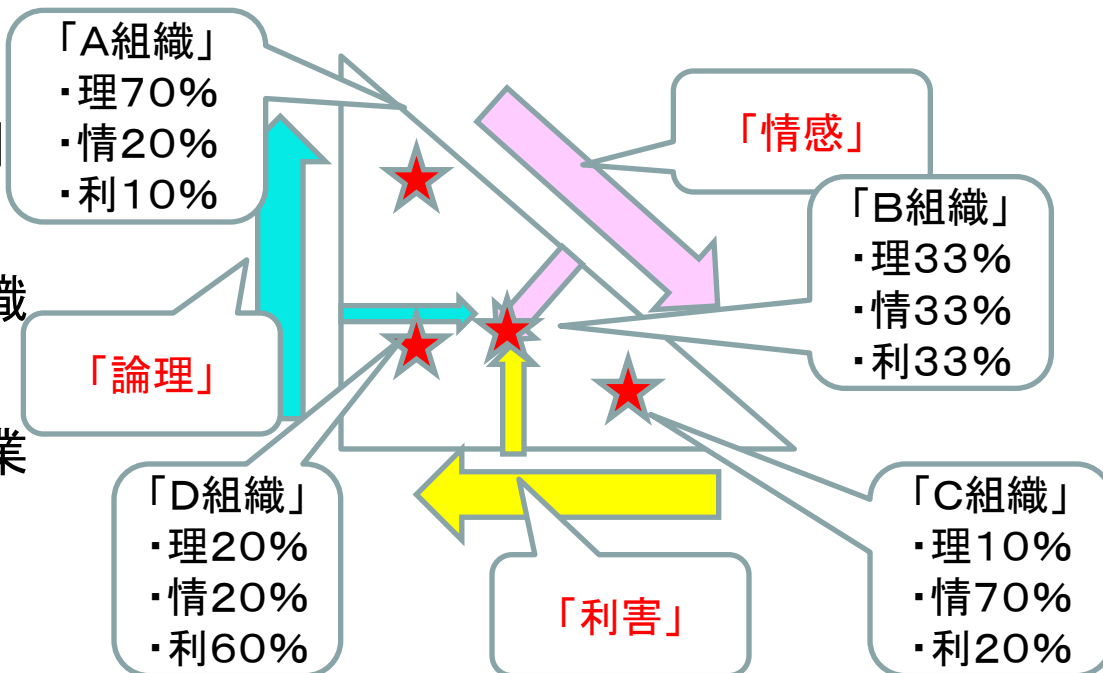
研究機関・政策機関間

B組織 = 一般的組織

C組織 = 家庭・仲間的組織

・愛護産業組織

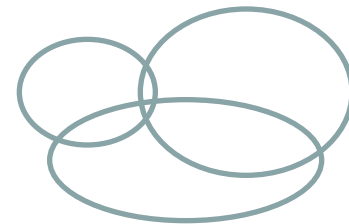
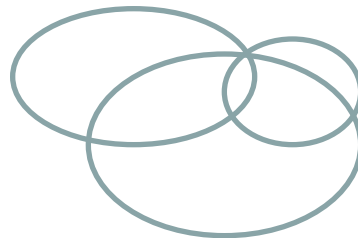
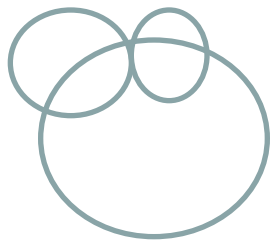
D組織 = 競争型組織・企業



「解説」・・自然発生的なものは、「生存維持」のための結合であり、それは利害を基底にし、感情での結びつきから起きたと思われる。第一次集団・共同体がこれで、その後、目的に合わせての組織作りとなると理論の要素が強まってきた。

「解説・使用説明」

- 1: 組織は、自然発生的な段階では、生存(「利益」)のための「感情」を基にした結合であるが、次第に、組織が目的を持ってくるとそのつながりに「論理」が入ってくる。
- ① 当初の組織は単純明快で、利害関係で動く。(A国・T政権?)
 - ② やがて、内部の集団がグループ化してその「利害」を守るために、相互の「感情」共有が起きる。(トップ集団の共有は特権に・・・下部が忬度?)
 - ③ 組織の拡大により、小さな「感情」を超え出た大きな理念が求められると「論理」が取り入れられる。(理念には明暗・希望と恐怖・・・過つと被害大)
- 2: 組織内での、この3要素の文化の相克は常にある。(個人意識でも同様)
- 「原始生存型」(基本形) 「古代・情感型」(家族) 「近代・理念型」(企業)

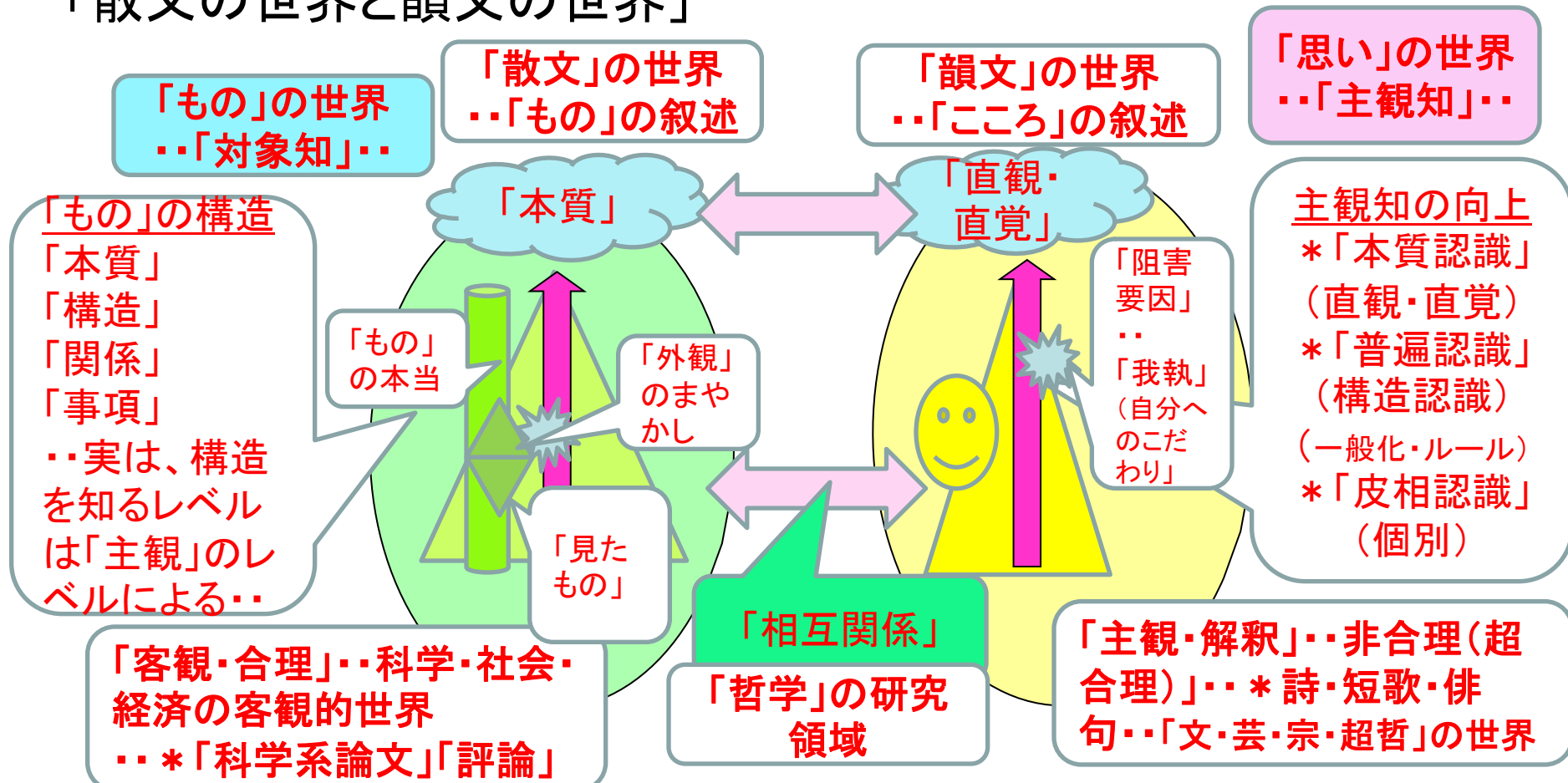


「文化」
☆☆☆
☆☆

「認識のしくみ(対象知・主観知)」

「散文」=『思考力入門』から,「韻文」=『俳句的生活』・『禅と日本文化』から

「散文の世界と韻文の世界」



「解説」..なぜ主観知を考える? ~「しつけ」(一定型)「道徳」(一定内容)「人生観」(人「主観」により多様)~となるように、人の成長は..他律(客観)から自律(主観・人生観)へ、しかも、人生観の多様が混乱・混沌ではないためには、多様でも本質を把握していることが必要..(参考..「本質」とは..自然:「山緑花紅」・人間:「眼横鼻直」)

「解説・使用説明」

「解説」・・・なぜ主観知を考える？～人の成長は・・・他律(客観)から自律(主観・人生観)となるが、人生観の多様が混乱・混沌ではないためには、多様でも本質を把握していることが必要・・・(「山紫水明」「山緑花紅」:「眼横鼻直」など)・・・つまり、「現象」に惑わされないためには「本質」思考が求められる。

*「散文」的世界・・・客観的な現象を探る世界(物事の事実を述べることからその奥を探ることに)・・・その時に・・・

*現象にごまかされないで奥を探るには、認識主体の主観知の深化も必要となる(自分の目が曇っていると本質が見えない)

*「韻文」的世界・・・ここでは、ものごとを知ろうとする自分の心の動きを探る・・・自分の心が、皮相的な現象から本質的な認識へと迫れるようになると、客観世界「物事の世界」も、その本質的な理解ができるという。

「利用」・・・学習が一定のレベルに達し限界が生じて、その後に至る道を探るとき、あるいは、組織の運営が一定の成功を果たしたが、将来展望が描きにくいとき。・・・「外の世界ではなく自己の世界に原因がある」との気付きは賢い道となる・・・芸術・宗教・哲学的な思考と感性が必要な場面の時に・・・

「主観知を掘り下げる」

「文化」
☆☆☆
☆☆

「図式」

● 人の認識の旅路 ●



「解説」・・・同様な思い(発)は、キルケゴールの次の言葉にもみられる。「私にとって真理であるような真理を発見し、私がそのために生き、そのために死にたいと思うようなイディーを発見することが必要なのだ。いわゆる客観的真理など探してみたところでそれが何の役に立つのだろう。」・・・私たちはここまで行かないし、いけないから人生の苦悩に落ち込まず、大丈夫だが、こうした発想があることを知りおくと、深みのある思考ができる。(禅的には「無」「空」への自己放棄である。)

「解説・使用説明」

「解説」・・・私達が主観知に向かう契機は、自己の限界(「病苦」・「敗者」などによる自信喪失)です。しかし、これで、自己が深まり、幅広くはなりません。(逆に一時的には異常な自己執着になることも)・・・その道筋を述べたものです。

* 例えば、キルケゴールは「私にとって真理であるような真理を発見し、私があるために生き、そのために死にたいと思うようなイデーを発見することが必要なのだ」として、客観的真理などの探究を否定するのだが・・・こうして彼は、主観の袋小路に落ち込み・・・まずは、芸術・宗教・超哲学の悲劇(私への拘りの重さ)に悩み、その後、喜び(私の放棄「主客同一」・・・キリスト教の場合は神への自己放棄)で完成します。禅の「無」や「空」ではなく、神という人格神を想定します。(仏教でも「仏」との同一化というキリスト教と近い理論もあるが・・・こちらが分かりやすいから「大衆仏教」となっています)

「利用」・・・対人関係理解(仕事では、学校の「生徒指導」などや会社での「人事評価」など)、自分用の利用では、競合的な活動で失敗し、振り返るとき・・・賢くなれます・・・

「文化」
☆☆☆
☆☆☆

「事実と解釈」の関係理解のFW

..事実は変わらなくても解釈で思いや対応が違うことを学ぶ..2つの事例..

「ダブルフォーカスの思考」 「解釈の変化」が起きる

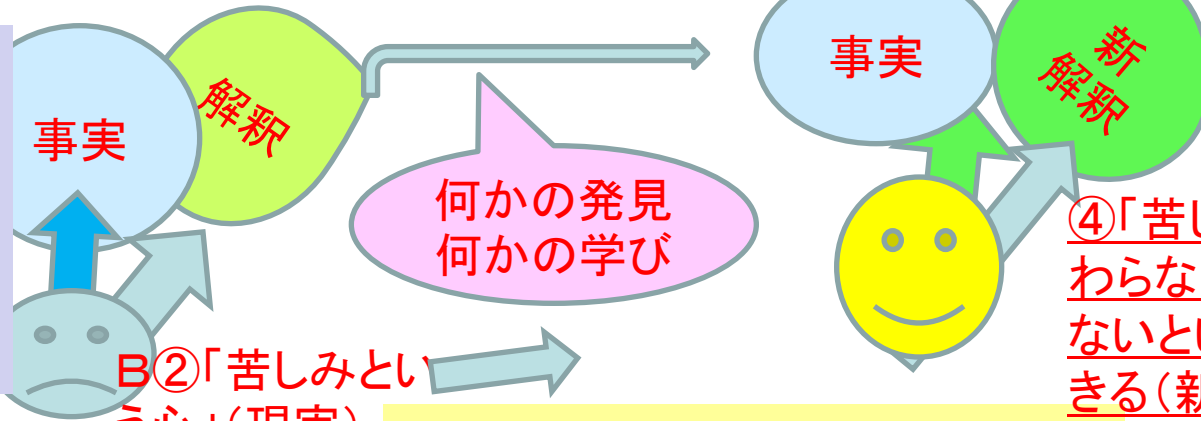
..「事実」を見る目と「解釈」する心

Aの例:①「大きな岩」を見る

A②「大きな岩でびっくり」の気持ち

A:④「大きな岩」という事実は変わらないが..彼にとっては「大した岩ではない」という気持ちへと変化

A君の③「新体験」(もっと大きな岩に出会った)ことからの心境変化



B②「苦しみという心」(現実)

④「苦しみ」の事実は変わらないが..苦しみではないという心の変化が起きる(新解釈..受け止める「現実」)

Bさんの①
苦しみという
事実

Bの例の母親での③「心境の変化」..「私に与えられた試練だ。私だからできる試練..もし、他の人だったら、うまくできないかも？」

(参考資料 渡辺和子『目見見えないけど大切なもの』phpより)

「解説・使用説明」

「解説」・・・2つの判断が求められる難しい思考のFWです・・・

1: 事実は・・・そのことの客観的状況です。それに対して、現実には、それを受け誰か(主体)がいての成立です。事実には、主体が不要ですし、主体がない方がよいのです。現実には、それを受け止める「私」なしには成り立ちません。(科学的真理と文化的な心理との違いです)

2: ですから、「事実」が変わらなくても、「現実」は変わることがあります。今まで見ていた「大きな岩」も、経験の積み重ねで「それほど大きな岩」と思えなかったり、「障害」という「事実」は同じでも、それを受け止める「現実」は、心の変化によって「障害を受け止める」に変わってきます。・・・先の「散文」と「韻文」の思考とつながるかも知れません。

「利用」・・・ここまでの高度思考段階ですので、もう皆様のご判断にお任せします・・・

「相関関係」FW

・相関関係をグラフで・

「自然・文化」
☆☆☆☆

「温度と雨量」

温度

高い

この関係は・・・どちらのグラフ？・・・これはon

海面温度・・・高いと水蒸気の蒸発多い
水蒸気が多いと雨も多い

多い

雨量

相対関係 (trade off)・・・はどのようなものとの関係か？・・・縦軸＝ものの価格と横軸＝販売量・・・(需要曲線)が有名

「解説」

縦軸Yと横軸Xによる相関関係のグラフは物事の関係理解では有効・・・
* XYとが相応関係(比例関係)なら「trade on」(関係成立)となる・・・「好きと出来る」などの関係
* XYが相対関係(逆比例関係)なら「trade off」(関係不成立)となる・・・「パイの分配」(Aが多くとればBは少なくなる)・・・社会の多くがこれだ・・・
* そこで、こうした「trade off」の関係でも、ABの関係を共立させようとするのが「winwin」という発想・・・
(でも、これには、時に勝者側の詭弁もあるので注意)

☆ CR:kanaoka

「解説・使用説明」

「解説」

- ・・ものごとの相関関係は、正と負の相対関係が主流でしょう。だから、CP(コンピューター)での判断も2択方式で累計加算されて判断するのでしょう。人間の判断では、その中間の灰色判断としての「+-の中間の0ベース」もありあます。「0」は少しの変化で+か-になりますので、つかみにくいところです。(人間関係の老獪な技、外交力もここを使います・・巧いといえばいうまい、卑劣といえばそうでしょう)
- ・・一般の出来事は、ABの相応関係が状況としては課題が少ないですが、ABの相対関係(これが世の常で多いです)をどう処理するかがいつも問題となります。
- ・・社会では、これを処理できる人が成功者となります・・一般にこのTrade off関係でWin winを探るのです・・難しい探究です・・とかく勝者側の論理となりがちですから・・

「相関関係」FW

「社会・文化」
☆☆☆
☆☆

「解説」

・・・相関関係をグラフで・・・

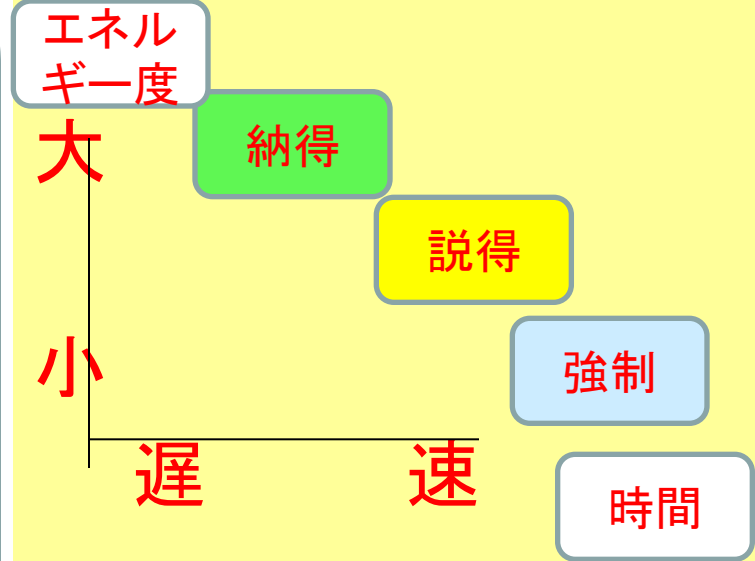
相対関係 (trade off) の例の一つ・・・「納得」して自ら動くのならばエネルギー一度は高い・・・でも、時間からすると、この納得は長時間が必要、「強制」の方が速い。でも強制では、人は自分の能力の全ては出さないし、反発者も出てくる。

* 組織では、急ぐときでも、せめて中核者には「納得」が必要・・・そうでないと・・・組織崩壊に・・・

* その歴史的証明は・・・覇者の盛衰で分かる・・・

* そこで、現在の組織形態は、多くが「説得」となる・・・「民主主義社会」はこれ・・・それなりの時間をかける・・・しかも・・・中途半端な結論・・・でもこれが現実

「比較」の例



動員エネルギーは「納得」、でも、時を逸する。速いは「強制」・・・しかし少数で行うしかない、多数の反発も・・・

「解説・使用説明」

「解説」・・「人の十分な理解」と「時間スピード」との関係は、先のグラフでは「trade off」の関係です。人は十分理解し「納得」すれば大きな力を出しますが、それは難しいことですので、緊急時には「強制」が必要となります。特に、混乱期で人民の思考が多様化しすぎて混乱が起きているときには強制が起きます。でも、これは短期でないとも民衆の成長はありません。

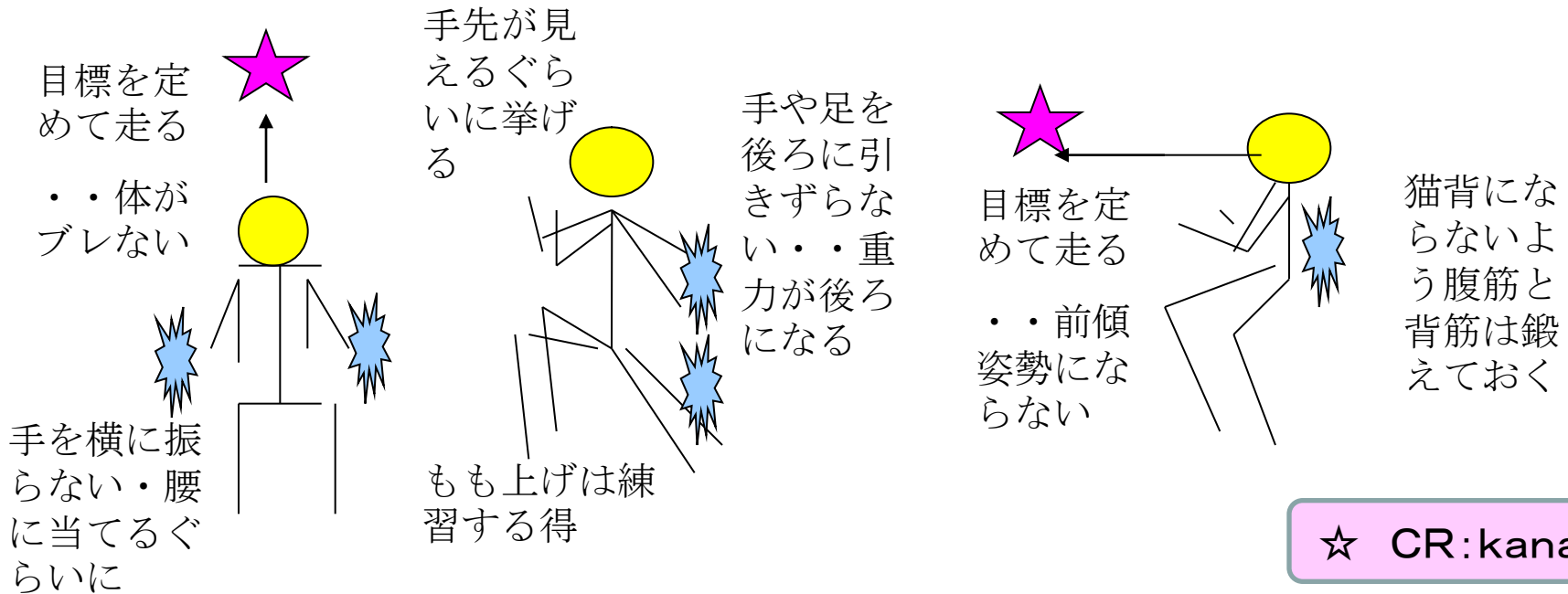
・・つまり、理想は「納得」だが、現実には中間の「説得」となります。現在の民主主義がこれです。・・懸命の「説得」で、大衆の票を集めて政権を担う・・という道です。

・・でも、この「説得」の道も万能でないことは、2千年以上前のアテナイの民主政の失敗（実行したことは画期的でも、市民大衆の愚民化で失敗）とそれに抗したソクラテスの悲劇に学ぶことが多い。・・大衆の意識変革を課題として活動したのですが、大衆は、多数派工作による大衆迎合する民主派側に付き、返り討ちにされました・・大衆の意識変革は難しいのですね・・・どうしても、私達は、目前利益や不安を煽られると、目先判断で行動する傾向があります・・後で悔やむのですが・・民主主義ほど、大衆の教育と学びが必要なのですが・・今の教育界もまた大衆迎合型になっているのかも知れませ・・

(付録)「体育技能のFW」カー スポーツ「走る」技能

「教育・
体育」
☆☆

- ①:体の横揺れを防ぎ、まっすぐに走る。
- ②:体の重心移動を前に持って行く。
- ③:あごが上がらない姿勢を保つ。



「解説・使用説明」

・・専門外ですのでそれなりにお読みください・・

◎昔むかし、陸上部の指導の補佐をしたことがあります。その時に、初心者には短距離走の理論的説明をしていました。(上級者は、プロの体育教師が対応します。)

・・これでも、初心者は一応フォームが出来上がります。

ポイントは、科学的です。①前に走るのだからエネルギーを前に向かわせる＝横揺れしない、重心を後ろに引きずられない(そのためには顔と目線が重要)、②足で蹴って体を移動させるのだから、足の移動をスムーズに、足の蹴りを有効に＝足の回転をうまくする、体の重心移動をうまくする(始めは足・股～中間疾走は腰～最後は腕と上半身)

◎その後、水泳にも挑戦してバタフライのコツを見つけました。
・お尻を振る練習よりも、顔と目線と腕の掻きから始める方が近道と分かりました。(現在は体力が落ちて泳げません)

「まとめ」(科学編・・合理)

1: 物理的ルール

「大小・長短」= 総エネルギー量

・・大きくて時間が長いと影響が大

「高低」= 位置エネルギー・・高い位置がエネルギー大

「強弱」= 内エネルギー・・密度が高いとエネルギー強

・・その他 「硬軟」・「

2: 化学的ルール

「酸・アルカリ」= 化学反応によるエネルギー

3: 地学・生物的ルール

「温度」・「湿度」・・大地・生物への影響

「まとめ」(経済編・・効率)

1: 費用(コスト)ルール

「生産コスト」= 材料費・従事時間・技知能力

「流通コスト」= 流通手段費・従業時間・技知能力

「在庫コスト」= 在庫場費・従業時間・技知能力

2: 時間(経過)ルール

「遅速」= 調達・入手までの時間効率(コストと関連)

・・速いほどコスト低

3: 需要ルール

「需用」= 要不要が最終効率を決める

・・状況により決定(判断は読みにくい)・・・需要がないと「物・サービス」は無駄に(効率ゼロかマイナス)

「まとめ」(文化・心理編・効果)

- 1: 感覚ルール＝その時の好悪の感覚(最初の印象など)
 - ・色や形・温度など・身体的
- 2: 心情ルール＝一定期間での快不快の感情
 - ・受容した印象への心(前論理)の反応
 - これまでの生活・文化の影響・一定心情の形成
 - (自己承認欲求が判定者となる)
- 3: 信条ルール＝長期的な正邪・適不適の思い
 - ・受容した印象・心情・その後の理性的対応
 - ・これまでの人生への思いが影響・一定信条の形成
 - (自己実現欲求など社会的な思考が影響)
 - 「犠牲を払ってでもそれを選択」(エコ製品購買など)

・・2017年 6月16日・・
・・一応ここまで・・

・・・これからは,皆さんの「FW」が増えるといいですね。私の方も、もしいくらかの頭の展開がありましたら、追加します。

* * なお、文科系での思考の深化には、「四文字熟語」(この中にある「儒学」・「道学(老荘)」・「仏教(中でも禅語)」)が「FW」として役に立ちます。

・・・(「例」・・・「一罰百戒」(一つの罰が百の戒めになる)

「一月三舟」(一つの月も舟の動きに応じて三様相に見える・・・
事実と解釈の法則・・・) など 深い思考が学習できます。